



HPプレゼンテーション スキャナー プログラミングガイド

© Copyright 2011, 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護された所有権に関する情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、HP Inc.の書面による承諾なしに複写、複製、あるいは他言語へ翻訳することはできません。

プログラミングガイド

HPプレゼンテーション スキャナー

初版：2011年12月

改訂第1版：2013年3月

製品番号：678402-292

目次

第1章 お使いになる前に	1
このガイドについて.....	1
マニュアルの表記規則.....	1
スキャナーの接続.....	2
プログラミング.....	2
プログラミングバーコードの使用.....	2
標準の製品初期設定へのリセット.....	3
LEDおよびビープ音によるインジケータ.....	3
エラーコード.....	4
第2章 全般的な機能	5
二重読み取りのタイムアウト（線形ラベル）.....	5
二重読み取りのタイムアウト（2Dラベル）.....	7
スリープモード.....	8
LEDおよびビープ音によるインジケータ.....	10
電源投入時の警告.....	10
ERIアクティブ状態高.....	10
ERIタイムアウト.....	11
読み取り成功：通知のタイミング.....	12
読み取り成功ビープ音の制御.....	13
読み取り成功ビープ音の周波数.....	13
読み取り成功ビープ音の長さ.....	14
読み取り成功ビープ音の音量.....	15
スキャン機能.....	16
復帰の強度.....	16
画像のキャプチャ.....	18
画像をキャプチャする方法.....	18
特別なラベルのスキャンによる画像のキャプチャ.....	18
ホストコマンドによるホストへの画像のキャプチャ.....	18
画像の圧縮.....	19
画像の明るさ.....	20
画像のコントラスト.....	20
携帯電話モード.....	21
携帯電話モードの感度.....	21
第3章 インターフェイス関連の機能	23
インターフェイスの選択.....	24
インターフェイス機能.....	24
ホストコマンドに従う/無視.....	24
ホスト送信バッファ.....	25
USB Comインターフェイス機能.....	26
USB COMデバイスの使用法.....	26
USBキーボード.....	27
キーボードレイアウト.....	27
Caps Lockの状態.....	30
制御文字.....	31
文字間遅延.....	32
第4章 データ編集	33
データ編集の概要.....	33
以下のことにご注意ください.....	33
AIM ID.....	35
ラベルID.....	36

大文字/小文字変換	42
文字変換	43
第5章 読み取りコード	45
UPC-A	45
UPC-Aの無効化/有効化	45
チェック デジットの送信	46
UPC-AをEAN-13に拡張	46
ナンバー システム デジット (NSD) の送信	47
UPC-Aの最小読み取り回数	47
UPC-Aのインストアの最小読み取り回数	48
UPC-E	49
UPC-Eの無効化/有効化	49
チェック デジットの送信	49
ナンバー システム デジット	50
UPC-EをUPC-Aに拡張	50
UPC-EをEAN13に拡張	51
最小読み取り回数	51
GTIN	52
UPC/EANをGTINに拡張	52
EAN-13	53
EAN-13の無効化/有効化	53
チェック デジットの送信	53
EAN-13のフラグ1文字	54
ISBN	54
最小読み取り回数	55
EAN-8/JAN-8	56
EAN-8/JAN-8の無効化/有効化	56
チェック デジットの送信	56
最小読み取り回数	57
EANの2ラベル	58
EANの2ラベルが結合された送信	59
価格とウェイトのチェック デジット	60
アドオン	61
2桁アドオンの最小読み取り回数	63
5桁アドオンの最小読み取り回数	64
GS1 DataBar Omnidirectional/Stacked Omnidirectional	65
GS1 DataBar Omnidirectionalの無効化/有効化	65
UCC/EAN 128エミュレーション	65
最小読み取り回数	66
GS1 DataBar Expanded/Expanded Stacked	67
GS1 DataBar Expandedの無効化/有効化	67
GS1-128エミュレーション	67
長さ制御	68
GS1 DataBar Expandedの長さ1、長さ2のプログラミング手順	68
最小読み取り回数	69
クーポン読み取り制御	70
GS1 DataBar Limited	71
GS1 DataBar Limitedの無効化/有効化	71
GS1-128エミュレーション	71
最小読み取り回数	72
Code 39	73
チェックキャラクタの計算	73
チェックキャラクタの送信	74
スタート/ストップキャラクタ	74
Code 39 Full ASCII	75
長さ制御	76

Code 39の長さ1、長さ2のプログラミング手順	76
クワイエットゾーン	77
Code 39のステイッチ	77
最小読み取り回数	78
Code 32 (Italian Pharmacode)	79
Code 32 (Italian Pharmacode) の無効化/有効化	79
スタート/ストップキャラクタ	79
チェックキャラクタの送信	80
Code 128	81
Code 128の無効化/有効化	81
EAN 128の無効化/有効化	81
ファンクション文字の送信	82
長さ制御	83
Code 128の長さ1、長さ2のプログラミング手順	83
Code 128からCode 39への変換	84
Code 128のステイッチ	84
最小読み取り回数	85
Interleaved 2 of 5	86
Interleaved 2 of 5の無効化/有効化	86
チェック デジットの計算	86
チェック デジットの送信	87
長さ制御	88
Interleaved 2 of 5の長さ1、長さ2のプログラミング手順	88
Interleaved 2 of 5のステイッチ	89
最小読み取り回数	90
Codabar	91
Codabarの無効化/有効化	91
チェックキャラクタの検証	91
チェックキャラクタの送信	92
長さ制御	93
Codabarの長さ1、長さ2のプログラミング手順	93
クワイエットゾーン	94
スタート/ストップキャラクタの種類	94
スタート/ストップキャラクタの送信	95
スタート/ストップキャラクタの照合	95
Codabarのステイッチ	96
最小読み取り回数	97
Code 93	98
Code 93の無効化/有効化	98
長さ制御	99
Code 93の長さ1、長さ2のプログラミング手順	99
Code 93のステイッチ	100
最小読み取り回数	100
MSI/Plessey	101
MSI/Plesseyの無効化/有効化	101
チェック デジットの検証	101
チェック デジットの送信	102
チェックキャラクタの数	102
長さ制御	103
MSI/Plesseyの長さ1、長さ2のプログラミング手順	103
MSI/Plesseyのステイッチ	104
最小読み取り回数	105
Standard 2 of 5	106
Standard 2 of 5の無効化/有効化	106
チェック デジットの検証	106
チェック デジットの送信	107
長さ制御	108

Standard 2 of 5の長さ1、長さ2のプログラミング手順	108
Standard 2 of 5のステッチ	109
最小読み取り回数	110
Code 11	111
Code 11の無効化/有効化	111
チェックキャラクタの送信	111
長さ制御	113
Code 11の長さ1、長さ2のプログラミング手順	113
最小読み取り回数	114
第6章 2D読み取りコード	115
2D読み取りコード	115
PDF 417	115
PDF 417の無効化/有効化	115
長さ制御	116
PDF 417の長さ1、長さ2のプログラミング手順	117
Micro PDF 417	118
Micro PDF 417の無効化/有効化	118
長さ制御	119
Micro PDF 417の長さ1、長さ2のプログラミング手順	120
Datamatrix	121
Datamatrixの無効化/有効化	121
長さ制御	122
Datamatrixの長さ1、長さ2のプログラミング手順	123
QR Code	124
QR Codeの無効化/有効化	124
長さ制御	125
QR Codeの長さ1、長さ2のプログラミング手順	126
Micro QR Code	127
Micro QR Codeの無効化/有効化	127
Maxicode	128
Maxicodeの無効化/有効化	128
長さ制御	129
Maxicodeの長さ1、長さ2のプログラミング手順	130
Aztec	131
Aztecの無効化/有効化	131
長さ制御	132
Aztecの長さ1、長さ2のプログラミング手順	133
Compositeラベル	134
GS1 DataBar Omnidirectionalの2Dコンポーネントの無効化/有効化	134
GS1 DataBar Expandedの2Dコンポーネントの無効化/有効化	134
GS1 DataBar Limitedの2Dコンポーネントの無効化/有効化	135
第7章 高度なデコード機能	137
医薬分野のパターン	137
反転ラベルの読み取り	138
第8章 リファレンス	139
グローバルプレフィックス/サフィックス	140
ラベルID	141
長さ制御	142
長さ1、長さ2のプログラミング手順	142
付録A 製品仕様	143
光学および読み取り性能パラメーター	143
スキャナーの寸法	143
物理的特性	144

電気的パラメーター	144
環境パラメーター	144
その他のパラメーター	144
付録B 英数字パッド	145
付録C 初期設定	147
読み取りコード別の初期設定	147
付録D USBキーボードのファンクションキー マッピング	149
付録E ホスト コマンド	151
USB COMインターフェイスでサポートされるホスト コマンド	151
付録F 読み取りコードの例	153
1D読み取りコードの例	153
2D読み取りコードの例	155
Composite読み取りコードの例	156

メモ

第1章 お使いになる前に

スペースが非常に貴重な店内のカウンターで、読み取り位置がスキャナー前面に近い場合でも、HPプレゼンテーション スキャナーではすばやくスキャンできます。スワイプ式とプレゼンテーション式のスキャン方法を組み合わせて使用できるため、小さくて持ちやすい商品はハンズフリーで、大きい商品はハンドヘルドでスキャンできます。

このガイドについて

このガイドには、接続、プログラミング、製品とケーブルの仕様、その他の役立つリファレンスなど、上級ユーザー向けの情報が記載されています。設置、メンテナンス、トラブルシューティング、保証などに関する追加情報については、クイック リファレンス ガイド (QRG) を参照してください。この製品に関連する他の説明書は、HPのWebサイトから無料でダウンロードできます。

本体は、最も一般的な端末および通信の設定に合わせて工場出荷時にプログラムされています。これらの設定を変更する必要がある場合は、このガイドに記載されているバーコードをスキャンして、カスタム プログラミングを行うことができます。

太字のテキストおよび黄色で強調表示された背景は、機能やオプションの最も一般的な初期設定を示しています。

マニュアルの表記規則

以下に示す記号は、スキャナーの使用時に注意する必要がある重要な問題または手順を読者に知らせるために、ガイドの中で使用されています。



注

「注」には、スキャナーの適切な診断、修復、および操作に必要な情報が記載されています。



注意

「注意」記号は、機器またはプロパティが損傷する可能性のある動作についてユーザーに注意を促します。

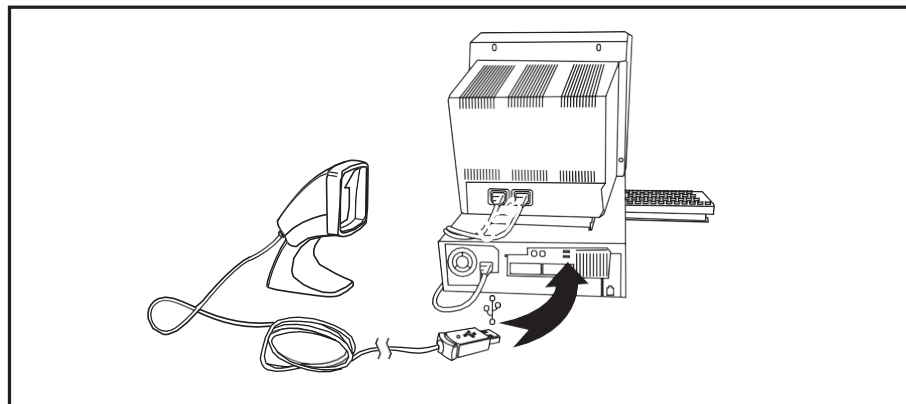
スキャナーの接続

お使いのインターフェイスに合わせて購入したスキャナーキットには、適合するケーブルが付属しています。以下の適切な手順を使用して、端末、PC、またはその他のホストデバイスにスキャナーを接続してください。

以下の適切なインターフェイスの手順を使用して接続を完了したら、このガイドの「[インターフェイス関連の機能](#)」セクションに進み、正しいインターフェイスの種類を選択します。

USB接続：注文したインターフェイスの種類に適したUSBケーブルを使用して端末またはPC上のUSBポートにスキャナーを接続します。図1を参照してください。

図1. USB接続



プログラミング

スキャナーには通常、注文したインターフェイスの種類に合った標準の初期設定による機能が工場出荷時に設定されています。「[インターフェイス関連の機能](#)」セクションのインターフェイス用バーコードをスキャンしたら、その他のオプションを選択し、そのセクションに記載されている手順およびプログラミングバーコードを使用してスキャナーをカスタマイズできます。このガイドの「[データ編集](#)」および「[読み取りコード](#)」の章も参照してください。

プログラミングバーコードの使用

このガイドには、機能の説明、およびスキャナーの再設定を可能にするバーコードが記載されています。プログラミングバーコードラベルの一部には、初期設定にリセットするための下記のように、1つのラベルをスキャンするのみで変更が完了するものがあります。しかし、このガイドに記載されているほとんどのプログラミングラベルでは、ラベルをスキャンする前にスキャナーをプログラミングモードにする必要があります。プログラミングモードを開始するには、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードを1回スキャンします。スキャナーがプログラミングモードになったら、いくつかのパラメーター設定をスキャンして、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。これで変更が確定されます。プログラミングモードを終了すると、スキャナーが通常の動作に戻ります。

標準の製品初期設定へのリセット

スキャナーにどのようなプログラミング オプションがあるかわからない場合や、一部のオプションの変更後に工場出荷時設定に戻りたい場合は、以下の[標準の製品初期設定]バーコードをスキャンします。これにより、現在有効なインターフェイスの工場出荷時設定が現在の設定にコピーされます。



標準の製品初期設定

LEDおよびビープ音によるインジケータ

スキャナーのビープ音および緑色のLEDでは、スキャナーのさまざまな機能やエラーが表されます。下の表に、これらのインジケータによる通知の一覧を示します。ただし、スキャナーの機能はプログラム可能であり、通知のオン/オフを切り替えられることがあるため、表に示された動作に当てはまらない場合もあります。たとえば、電源投入ビープ音のような特定の通知は、プログラミング バーコード ラベルを使用することで無効にできる場合があります。

緑色LEDによる通知

LEDによる通知	状態	コメント
電源投入	明るい緑色で点滅	スキャナーが電源投入時のテストをすべて終了し、動作可能な状態になったことを示します
読み取り成功	明るい緑色で点滅	バーコードが読み取られてデコードされたことを示します
スキャナーの準備完了	暗い緑色で点灯	スキャナーが動作可能な状態になっています
スリープモード	緑色で継続的に点滅（100ミリ秒点灯、1900ミリ秒消灯）	スキャナーがスリープモードになっています。スキャナーを復帰させるには、スキャナーの窓の前で物体を動かします
ホストによる無効化	緑色で継続的に点滅、1Hz（100ミリ秒点灯、900ミリ秒消灯）	スキャナーはPOS端末から無効化コマンドを受信したため無効になっています
診断	場合によって異なります（詳しくは、4ページの「エラーコード」を参照してください）	LEDは、スキャナーがセルフテスト中に問題を検出した場合に診断のフィードバックを提供します
プログラミングモード	上記の「ホストによる無効化」を参照してください	スキャナーがプログラミングモードになっています

ビープ音の機能

ビープ音による通知	状態	コメント
電源投入	ビープ音1回	LEDによる電源投入通知は設定可能な機能であり、有効または無効にできます。有効になっている場合、このビープ音は、スキャナーが電源投入時のテストをすべて終了し、動作可能な状態になったことを示します
読み取り成功	ビープ音1回	読み取り成功ビープ音は設定可能です。オプションは、有効/無効、周波数、持続時間、および音量です。詳しくは、10ページの「LEDおよびビープ音によるインジケーター」セクションを参照してください
診断	場合によって異なります (詳しくは、4ページの「エラーコード」を参照してください)	ビープ音は、スキャナーがセルフテスト中に問題を検出した場合に診断のフィードバックを提供します
プログラミングモード	設定する機能によって異なります	スキャナーの設定中は、プログラミング バーコード ラベルを読み取るとビープ音が鳴って進行状況を示します

エラーコード

スキャナーの起動時に、(通常の電源投入通知とは異なり) インジケーターLEDが点滅したり、予期しない連続したビープ音が鳴ったりした場合は、スキャナーの自動セルフテストが正常に完了しなかったためにFRU¹分離モードが開始されたことを示します。スキャナーがリセットされるか、トリガーが引かれると、一連の処理が繰り返されます。以下の表に、検出されたエラーに関連するLEDの点滅およびビープ音のコードを示します。

LEDの点滅/ ビープ音の回数	エラー	修正方法
1	構成	ヘルプデスクにお問い合わせください
2	インターフェイス	
6	システム コントローラー	
12	イメージャー システム	
13	ソフトウェアIDのエラー	

1 FRU (Field Replaceable Unit)

第2章 全般的な機能

二重読み取りのタイムアウト（線形ラベル）

この二重読み取りのタイムアウト機能は、同じ線形ラベルをもう一度読み取る（たとえば、同じ品目を2つ連続して読み取る）ために最小限必要な経過時間を設定します。

	開始/終了
プログラミングバーコード	
0.1秒	
	0.2秒
0.3秒	
	0.4秒
0.5秒	
	0.6秒 初期設定

二重読み取りのタイムアウト（線形ラベル）（続き）

	開始/終了
プログラミングバーコード	
0.7秒	
	0.8秒
0.9秒	
	1秒

二重読み取りのタイムアウト（2Dラベル）

この二重読み取りのタイムアウト機能は、PDF 417、Micro PDF 417、Data Matrix、QR Code、Maxicode、Aztec、またはCompositeラベルについて、同じラベルを連続して正常に読み取るために最小限必要な経過時間を設定します。











	開始/終了
プログラミングバーコード	
	20ミリ秒
40ミリ秒	
	1秒 初期設定
1.5秒	
	1.65秒
1.8秒	
	1.95秒
2秒	

スリープモード

この機能は、バーコードの読み取りが行われない状態がどれだけ継続するとスキャナーがスリープモードになるかを指定します。

	開始/終了
プログラミングバーコード	
	スリープモードの無効化
15秒	
	30秒
1分	
	2分
3分	
	4分
5分 初期設定	

スリープモード (続き)

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	6分
7分	
	8分
9分	
	10分
12分	
	15分
30分	
	1時間

LEDおよびビープ音によるインジケータ

電源投入時の警告

スキャナーが電源投入時のテストをすべて終了して動作可能な状態になったことを示す、1回のビープ音を無効または有効にします。

	開始/終了
プログラミングバーコード	
無効	
	有効 初期設定



ERIアクティブ状態高

この設定は、ERI (External Read Indicator) 信号のアクティブ状態の極性を高に指定します。非アクティブ状態は逆の極性になります。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
ERIアクティブ状態=低	
	ERIアクティブ状態=高 初期設定

ERIタイムアウト

読み取り成功時にERI（External Read Indicator）信号をアクティブに保つ時間を指定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
<p>ERIタイムアウトの時間を、000～255の範囲の16進値を使用して、10ミリ秒（0.01秒）単位で設定します。この機能を設定するには、上記の[開始/終了]バーコードをスキャンしてユニットをプログラミングモードにしてから、[ERIタイムアウトの設定]をスキャンし、目的の時間値を表す2桁の数字（ゼロパディング）を付録B「英数字パッド」の英数字表でスキャンします。[開始/終了]バーコードをもう一度スキャンして、プログラミングモードを終了します。</p> <p style="text-align: center;">この機能の初期設定：20ミリ秒（02）</p>	
	ERIタイムアウトの設定

読み取り成功：通知のタイミング

この機能は、バーコードの読み取りに成功したときに、スキャナーから通知される（ビープ音が鳴ったり、緑色のLEDが点滅したりする）タイミングを指定します。以下のオプションを選択できます。

- 読み取り成功=デコード後に通知
- 読み取り成功=送信後に通知
- 読み取り成功=各出力構造の検証後にビープ音



注

各出力構造のデコード後にビープ音を鳴らす場合、出力構造が複数あると、ビープ音の後に遅延が挿入されます。この遅延は、読み取り成功ビープ音の長さと同じになります。または、ULEスクリプトで設定できます。

	開始/終了
プログラミングバーコード	
デコード後 初期設定	
	送信後
各出力構造の検証後にビープ音	

読み取り成功ビープ音の制御

この機能は、バーコードのデコードに成功したときにビープ音を鳴らすスキャナーの機能を有効または無効にします。

	開始/終了
プログラミングバーコード	
無効	
	有効 初期設定

読み取り成功ビープ音の周波数

以下の一覧から選択できる低い、中程度、または高い周波数で鳴るように読み取り成功ビープ音を調整します。(ビープ音の音程の高さや階調を制御します。)

	開始/終了
プログラミングバーコード	
低	
	中 初期設定
高	

読み取り成功ビープ音の長さ

読み取り成功ビープ音の持続時間を指定します。

開始/終了		
プログラミングバーコード		
	30ミリ秒	
40ミリ秒		
	50ミリ秒 初期設定	
60ミリ秒		
	80ミリ秒	
100ミリ秒		
	120ミリ秒	
140ミリ秒		
	160ミリ秒	

読み取り成功ビープ音の音量

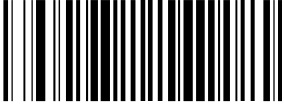






読み取り成功ビープ音を鳴らすときの音量（音の大きさ）を指定します。3つの音量レベルを選択できます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
小	
	中
大 初期設定	

スキャン機能

復帰の強度

この機能は、スキャナーをスリープモードから復帰させる周辺光の変化の割合を指定します。低く設定するほど感度が高くなります。この設定で選択できる範囲は5～80%です。

	開始/終了
プログラミングバーコード	
5%	
	10%
15%	
	20%
25% 初期設定	
	30%
35%	
	40%

復帰の強度（続き）

	開始/終了
プログラミングバーコード	
50%	
	60%
70%	
	80%

画像のキャプチャ



注

画像をキャプチャするには、スキャナーでUSB COMインターフェイスのみを使用する必要があります。

画像をキャプチャして転送した後、スキャナーは通常の読み取りモードに戻ります。

画像をキャプチャする方法

初期設定では、画像は最小の圧縮率を使用して640 × 480（VGA）フォーマットでキャプチャされ、ホストのアプリケーションソフトウェアを通して表示されます。画像をキャプチャするには、以下の2つの方法があります。

- 特別なラベルのスキャンによる画像のキャプチャ
- ホスト コマンドによるホストへの画像のキャプチャ

特別なラベルのスキャンによる画像のキャプチャ

画像のキャプチャを開始するには、以下の[画像のキャプチャ]ラベルをスキャンします。



画像のキャプチャ

このラベルをスキャンすると、しばらくの間（通常は5秒間）、スキャナーのビープ音が連続して高く鳴り、LEDが高速で点滅します。この時間が終わると、スキャナーは画像をキャプチャし、一連のビープ音を短い間隔で鳴らします。その後、データがホストに送信される間、スキャナーのLEDがゆっくり点滅します。最後に、キャプチャ処理が完了したことを示す一連のビープ音が鳴ります。

ホスト コマンドによるホストへの画像のキャプチャ

ホスト コマンドでも画像をキャプチャできます。詳しくは、付録E「ホストコマンド」を参照してください。

画像の圧縮

JPEG画像用の開始画像圧縮率を指定します。同じ画像では、高い値を指定するほど圧縮が減り、画質が高くなります。

値100は最小の圧縮を意味します。値1は最大の圧縮を意味し、品質は低下します。この機能をプログラムするには、以下の操作を行います。



1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [画像圧縮の設定]バーコードをスキャンします。
3. 目的の圧縮値を表す2桁の数字（ゼロパディング）を英数字パッドでスキャンします。設定できる範囲は01～0x64（01単位）です。
4. [終了]バーコードをスキャンします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	画像圧縮=30 (高圧縮、低品質)
画像圧縮=50 (中圧縮、中品質)	
	画像圧縮=100 (最小の圧縮、高品質) 初期設定

画像の明るさ

この機能は、画像の明るさの値を設定します。この機能を設定するには、以下の操作を行います。



1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [画像の明るさの設定]バーコードをスキャンします。
3. 目的の明るさを10進表記で表す2桁の数字（ゼロ パディング）を英数字パッドでスキャンします。設定できる範囲は00～0x0A（01単位）です。
4. [終了]バーコードをスキャンします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	画像の明るさの設定 この機能の初期設定：00

画像のコントラスト

この機能は、画像のコントラストの値を設定します。この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [画像のコントラストの設定]バーコードをスキャンします。
3. 目的のコントラストを10進表記で表す2桁の数字（ゼロ パディング）を英数字パッドでスキャンします。設定できる範囲は00～0x0A（01単位）です。
4. [終了]バーコードをスキャンします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	画像のコントラストの設定 この機能の初期設定：00

携帯電話モード

携帯電話モードでは、スキャナーで携帯電話の画面上のバーコードを読み取ることができません。このモードは以下のように設定されます。

- 無効：携帯電話モードなし
- 自動：自動的に携帯電話モードに移行
- 手動：ホストからコマンドを受信したときに携帯電話モードに移行
この機能について詳しくは、付録E「ホストコマンド」を参照してください。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	携帯電話モード=無効
携帯電話モード=自動初期設定	
	携帯電話モード=手動

携帯電話モードの感度

携帯電話モードが「自動」に設定されている場合、スキャナーは視野内に検出されるものに依って携帯電話モードに移行します。(携帯電話モードに移行するときは照明LEDにわずかな「ちらつき」が生じます。)初期設定では、中感度が選択されています。想定より頻繁にスキャナーが携帯電話モードに移行する場合は、次のページにある低感度のプログラミングラベルをスキャンすることで、スキャナーを低感度に設定できます。スキャナーが携帯電話モードに移行する頻度が少ないと感じる場合は、高感度のプログラミングラベルをスキャンすることで、スキャナーを高感度に設定できます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
  	携帯電話モードの感度=低感度 3つのバーコードをすべてスキャン
携帯電話モードの感度=中感度 初期設定 3つのバーコードをすべてスキャン	  
  	携帯電話モードの感度=高感度 3つのバーコードをすべてスキャン

インターフェイス関連の機能

現時点で、このリーダーは表1に示すインターフェイスに対応しています。目的のインターフェイスの種類を表から選択し、各インターフェイスに関連するカスタマイズ可能な機能のセクションのページ番号を参照してください。

表1. サポートされるインターフェイス

USB

USB COM

USBキーボード



注

注文したリーダーのインターフェイスの種類に適したインターフェイス ケーブルが付属しています。

インターフェイスの選択

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	USB COM
USBキーボード	






注

インターフェイス固有の設定は、アクティブになっているインターフェイスに対してのみ有効です。

インターフェイス機能

ホストコマンドに従う/無視

ホストコマンドを無視するように設定した場合、インターフェイスをアクティブに保つためおよびラベルを送信するために必要な最小セットを除き、スキャナーはすべてのホストコマンドを無視します。インターフェイスの通常動作に設定するには、**[ホストコマンドに従う]**を選択します。

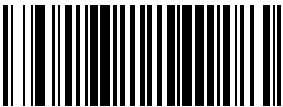


開始/終了	
プログラミングバーコード	
	ホストコマンドに従う 初期設定
ホストコマンドを無視	

インターフェイス機能（続き）

ホスト送信バッファ

バッファできるホスト送信の数を指定します。バーコードのデータをバッファすることで、スキャナーは新しいバーコードの読み取りを続けながら、古いバーコードをホストに送信できます。[バッファ=1]を選択した場合、最初のバーコードを送信した後でなければ新しいバーコードを読み取ることができません。[バッファ=2]を選択した場合、最初のバーコードのデータを送信している間に、新しいバーコードを読み取ることができます。

ホストからスキャナーの無効化コマンドを受信した場合、スキャナーはバッファされているすべてのデータの送信を継続します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	ホスト送信バッファ=1
ホスト送信バッファ=2 初期設定	




USB Comインターフェイス機能

USB COMデバイスの使用法

USB COMプロトコルを使用すると、スキャナーを2種類の異なるバーコード スキャナーのどちらかとして特定できます。同じ種類の2台のスキャナーをPOSシステムに接続するときは、種類を示すこの値を工場出荷時設定から変更することが必要な場合があります。

以下のオプションがあります。

- テーブルトップスキャナー
- ハンドヘルドスキャナー

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	テーブルトップスキャナーとして設定 初期設定
ハンドヘルドスキャナーとして設定	

USBキーボード











USBキーボード インターフェイスとして、このスキャナーは最もよく使われるPCおよびIBM端末に対応しています。設置は非常に簡単で、ソフトウェアやハードウェアを変更する必要はありません。

キーボードレイアウト

キーボードレイアウトのオプションでは、多くの国がサポートされています。キーボードレイアウトについて詳しくは、お使いのオペレーティングシステムの説明書を参照してください。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	米国 初期設定
ベルギー	
	英国
デンマーク	
	フランス
ドイツ	

USBキーボード（続き）

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	イタリア
ノルウェー	
	ポルトガル
スペイン	
	スウェーデン
スイス	
	日本106キー
ハンガリー	
	チェコ

USBキーボード (続き)

<p>開始/終了</p>	
<p>プログラミングバーコード</p>	
	<p>スロバキア</p>
<p>ルーマニア</p>	
	<p>クロアチア</p>
<p>ポーランド</p>	

USBキーボード（続き）

Caps Lockの状態

以下のオプションを選択できます。

Caps Lockオフ：通常の形式で文字データを送信します。

Caps Lockオン：大文字小文字を反対にして文字データを送信します。

Shift Lockモード：文字をシフトして文字データを送信します。これはWedge Gにのみ適用されます。他のインターフェイスの場合、この設定は**[Caps Lockオフ]**の機能になります。

Caps Lock補正モード：Caps Lockの状態を検出することにより、文字データの大文字小文字を維持します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Caps Lockの状態=Caps Lockオフ 初期設定
Caps Lockの状態=Caps Lockオン	
	Caps Lockの状態=Caps Lock補正モード

USBキーボード（続き）

制御文字

サフィックスおよびプレフィックスの文字に影響します。無効になっている場合、20H～127H（Space～Delete）のASCII文字、および特殊文字0DH（キャリッジ リターン）、08H（Backspace）、27H（Esc）、09H（右タブ）、0BH（左タブ）だけが送信されます。



以下のオプションを選択できます。

- 制御文字を無効にする
- ホストへの制御文字の送信を有効にする
- 特別なファンクション キーの対応表に従って00H～1FHの文字を送信する（通常のASCIIセットに含まれていないキーを送信するには、このオプションを使用します。使用可能なスキャンコード セットごとに一意のセットが用意されています。付録D「USBキーボードのファンクション キー マッピング」を参照してください）

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	制御文字を無効にする 初期設定
制御文字の送信を有効にする	
	ファンクション キー マッピングを有効にする

USBキーボード（続き）

文字間遅延

<p>開始/終了</p>	
<p>プログラミングバーコード</p>	
<p>送信速度が高すぎる場合、システムが一部の文字を受信できないことがあります。システムを正しく動作させるには、遅延の調整が必要になる場合があります。00～99の範囲で設定できます。</p> <p>USBキーボード：00では、USBホストポーリングレートは1ミリ秒になります。25以下のゼロでない値を指定すると、USBホストポーリングレートが10ミリ秒単位で増加します。25を超える値を指定すると、USBホストポーリングレートは255ミリ秒になります。</p> <p>この機能を設定するには、上記の[開始/終了]バーコードをスキャンしてユニットをプログラミングモードにしてから、[文字間遅延の設定]をスキャンし、目的の長さを表す2桁の数字（ゼロパディング）を付録B「英数字パッド」の英数字表でスキャンします。上記の[開始/終了]バーコードをもう一度スキャンして、プログラミングモードを終了します。</p> <p style="text-align: center;">この機能の初期設定： 01</p>	
	<p>文字間遅延の設定</p>

第4章 データ編集

データ編集の概要



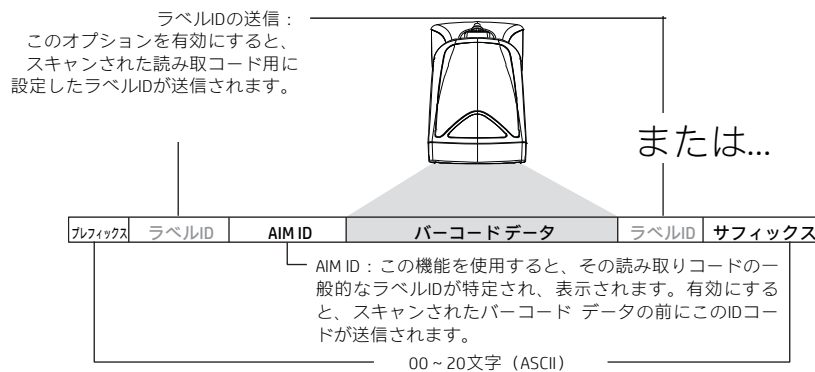
注意

これらの機能は、USB COMインターフェイスではサポートされていません。

バーコードをスキャンすると、バーコード データとともに追加情報をホスト コンピューターに送信できます。このバーコード データとユーザー定義の追加データの組み合わせを「メッセージ文字列」と呼びます。この章に記載されている機能を使用すると、特定のユーザー定義データをメッセージ文字列に組み込むことができます。

スキャンされたデータの前後に送信できる数種類の選択可能なデータ文字列があります。それらのデータ文字列をすべての読み取りコードに付加して送信するか、特定の読み取りコードのみに付加して送信するかを指定できます。図5は、メッセージ文字列に付加できる使用可能な要素を示しています。




図5. メッセージ文字列の内訳



以下のことにご注意ください...

- メッセージ文字列の変更は必須条件ではありません。データ編集は、上級ユーザーにとってはカスタマイズ性の高い出力を可能にする優れた機能です。通常、データ編集の工場出荷時の設定は[NONE]（◆なし◆）になっています。
- プレフィックスまたはサフィックスは、すべての読み取りコード（「読み取りコード」の章を参照してください）を対象に適用できます（この章のグローバル機能を参照して設定してください）。
- このガイドの裏表紙の内側に記載されている「ASCII表」（00 ~ 7F）から任意の文字をプレフィックス、サフィックス、またはラベルIDとして追加できます。
- プレフィックスおよびサフィックスは、出力に表示したい順序で入力します。

グローバルプレフィックス/サフィックス

開始/終了	
プログラミングバーコード	
<p>このオプションでは最大20文字を設定し、各文字はASCII文字セットまたは00～7Fの16進値から選択できます。この機能を設定するには、上記の[開始/終了]バーコードをスキャンしてユニットをプログラミングモードにしてから、[プレフィックスの設定]または[サフィックスの設定]をスキャンし、目的の文字を表す数字を付録B「英数字パッド」の英数字表でスキャンします。詳しくは、140ページの「グローバルプレフィックス/サフィックス」セクションを参照してください。[開始/終了]バーコードをもう一度スキャンして、プログラミングモードを終了します（選択した文字が20未満の場合は[開始/終了]を2回スキャンしてください）。</p> <p style="text-align: center;">初期設定のプレフィックス：00（なし） 初期設定のサフィックス：0D（CR）</p>	
	プレフィックスの設定
サフィックスの設定	

AIM ID

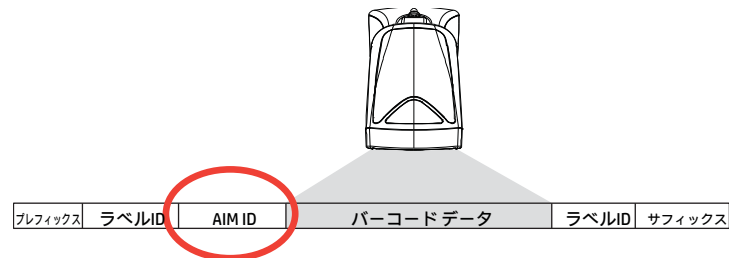
AIM (Automatic Identification Manufacturers) ラベルIDは、(ユーザーが自分で選択するカスタム ラベルIDとは対照的に) 世界標準リストから割り当てられ、スキャンされたバーコードデータに付加できます。AIMラベルIDは、以下のように3つの文字で構成されます。

- 閉じ括弧文字 (ASCIIの「)」。この後に以下の文字が続きます。
- コード文字 (以下の表を参照してください)。この後に以下の文字が続きます。
- 修飾文字 (修飾文字は読み取りコードによって決まります)。

読み取りコード	文字	読み取りコード	文字	読み取りコード	文字
UPC/EAN	E	Code 128/EAN 128	C	Databar	e
Code 39	A	MSI/Plessey	M	Code 11	H
Codabar	F	RSS (GS1 Omnidirectional, GS1 Expanded)	e	PDF417、MicroPDF	L
Interleaved 2 of 5	I	Standard 2 of 5	S	DataMatrix	d
Code 93	G	ISBN	X ^a	QR Code、Micro QR Code	Q
Maxicode	U	Aztec	z		

a ISBN (修飾文字0が付いたX)

図6. AIM ID



開始/終了	
プログラミングバーコード	
	AIM IDを無効にする 初期設定
AIM IDを有効にする	

ラベルID

この機能の設定について詳しくは、141ページの「ラベルID」セクションを参照してください。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	ラベルIDの送信：無効
ラベルIDの位置：バーコードデータの前 初期設定	
	ラベルIDの位置：バーコードデータの後
UPC-AのラベルID文字の設定	 この機能の初期設定：A (41h)
 この機能の初期設定：A (41h)	UPC-A (P2アドオンのラベルID文字付き) の設定
UPC-A (P5アドオンのラベルID文字付き) の設定	 この機能の初期設定：A (41h)
 この機能の初期設定：A (41h)	UPC-A (C128アドオンのラベルID文字付き) の設定
UPC-EのラベルID文字の設定	 この機能の初期設定：E (45h)

ラベルID（続き）

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定 : E (45h)	UPC-E (P2アドオンのラベルID文字付き) の設定
UPC-E (P5アドオンのラベルID文字付き) の設定	 この機能の初期設定 : E (45h)
 この機能の初期設定 : E (45h)	UPC-E (C128アドオンのラベルID文字付き) の設定
EAN-8のラベルID文字の設定	 この機能の初期設定 : FF (4646h)
 この機能の初期設定 : FF (4646h)	EAN-8 (P2アドオンのラベルID文字付き) の設定
EAN-8 (P5アドオンのラベルID文字付き) の設定	 この機能の初期設定 : FF (4646h)
 この機能の初期設定 : FF (4646h)	EAN-8 (C128アドオンのラベルID文字付き) の設定
EAN-13のラベルID文字の設定	 この機能の初期設定 : F (46h)

ラベルID (続き)

<p>開始/終了</p>	
<p>プログラミングバーコード</p>	
<p>この機能の初期設定 : F (46h)</p>	 <p>EAN-13 (P2アドオンのラベルID文字付き) の設定</p>
<p>EAN-13 (P5アドオンのラベルID文字付き) 設定</p>	 <p>この機能の初期設定 : F (46h)</p>
<p>この機能の初期設定 : F (46h)</p>	 <p>EAN-13 (C128アドオンのラベルID文字付き) の設定</p>
<p>ISBNのラベルID文字の設定</p>	 <p>この機能の初期設定 : I (49h)</p>
<p>この機能の初期設定 : G (47h)</p>	 <p>GTINのラベルID文字の設定</p>
<p>GTIN (P2アドオンのラベルID文字付き) の設定</p>	 <p>この機能の初期設定 : G2 (4732h)</p>
<p>この機能の初期設定 : G5 (4735h)</p>	 <p>GTIN (P5アドオンのラベルID文字付き) の設定</p>

ラベルID (続き)

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定 : G8 (4738h)	GTIN (C128アドオンのラベルID文字付き) の設定
GS1 OmnidirectionalのラベルID文字の設定	 この機能の初期設定 : R4 (5234h)
 この機能の初期設定 : RX (5258h)	GS1 ExpandedのラベルID文字の設定
GS1 DataBar LimitedのラベルID文字の設定	 この機能の初期設定 : RL (524C0000h)
 この機能の初期設定 : * (2Ah)	Code 39のラベルID文字の設定
Pharmacode 39のラベルID文字の設定	 この機能の初期設定 : A (41h)
 この機能の初期設定 : # (23h)	Code 128のラベルID文字の設定
12 of 5のラベルID文字の設定	 この機能の初期設定 : i (69h)

ラベルID (続き)

<p>開始/終了</p>	
<p>プログラミングバーコード</p>	
<p>この機能の初期設定 : % (25h)</p>	 <p>CodabarのラベルID文字の設定</p>
<p>Code 93のラベルID文字の設定</p>	 <p>この機能の初期設定 : & (26h)</p>
<p>この機能の初期設定 : CE (4345h)</p>	 <p>Code 11のラベルID文字の設定</p>
<p>MSI/PlesseyのラベルID文字の設定</p>	 <p>この機能の初期設定 : @ (40h)</p>
<p>この機能の初期設定 : s (73h)</p>	 <p>Std 2 of 5のラベルID文字の設定</p>
<p>PDF 417のラベルID文字の設定</p>	 <p>この機能の初期設定 : P (5000h) ^a</p>
<p>この機能の初期設定 : Dm (446Dh)</p>	 <p>DatamatrixのラベルID文字の設定</p>

a. PDF 417のラベルIDの初期設定の例外 : USB-HID-POSの初期設定は「P」(0x5020) (「Pとスペース」) です。

ラベルID（続き）



注

このページに記載されている2D読み取りコードのラベルIDは4バイトです。最初の3バイトは、ラベルIDを表す文字です。最初の3バイトに含まれている値00（16進数）は、ラベルID文字の末尾を示します。4番目のバイトは制御バイトです。

制御バイトの使用法は以下のとおりです。

ビット0が1に設定されている場合、そのラベルの種類AIM IDが付加されます。

開始/終了	
プログラミング バーコード	
 <p>この機能の初期設定：mP (6D500000h)</p>	<p>Micro PDF 417のラベルID文字の設定</p>
<p>QR CodeのラベルID文字の設定</p>	 <p>この機能の初期設定：QR (51520000h)</p>
 <p>この機能の初期設定：\$Q (2451h)</p>	<p>Micro QR CodeのラベルID文字の設定</p>
<p>MaxicodeのラベルID文字の設定</p>	 <p>この機能の初期設定：MC (4D430000h)</p>
 <p>この機能の初期設定：Az (417A0000h)</p>	<p>AztecのラベルID文字の設定</p>

<p>GS1 DataBar Omnidirectional 2D Compositeの ラベルID文字の設定</p>	 <p>この機能の初期設定 : R4 (52340000h)</p>
 <p>この機能の初期設定 : RL (524C0000h)</p>	<p>GS1 DataBar Limited 2D Compositeの ラベルID文字の設定</p>
<p>GS1 DataBar Expanded 2D Compositeの ラベルID文字の設定</p>	 <p>この機能の初期設定 : RX (52340000h)</p>

大文字/小文字変換

この機能を使用すると、スキャンされたバーコード データをすべて小文字 (a~z) またはすべて大文字 (A~Z) に変換できます。



注

大文字/小文字変換は、スキャンされたバーコード データにのみ影響し、ラベルID、プレフィックス、サフィックス、またはその他の連結されたデータには影響しません。

<p>開始/終了</p>	
<p>プログラミング バーコード</p>	
	<p>無効 初期設定</p>
<p>大文字に変換</p>	
	<p>小文字に変換</p>

文字変換

文字変換は、8バイトの設定項目です。この8バイトは、16進のASCII値で表現される4つの文字ペアです。このペアの最初の文字は変換前の文字です。このペアの2つ目の文字は変換後の文字です。ペア内の変換後の文字が「FF」である場合、変換は行われません。

たとえば、文字変換の設定項目を41423132FFFFFFに設定してある場合は、以下のようになります。

最初のペアは4142、つまりAB（16進数の41はASCIIの大文字A、16進数の42はASCIIの大文字B）であり、2つ目のペアは3132、つまり12（16進数の31はASCIIの1、16進数の32はASCIIの2）です。その他のペアは、FFFFおよびFFFFです。

AG15TA81というラベルでは、文字変換後のラベルはBG25TB82となります。

文字Aは文字Bに変換され、文字1は数字2に変換されました。最後の2つの文字ペアはすべてFFなので、何も行われません。

文字変換を設定するには、以下の操作を行います。



1. [開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. [文字変換]バーコードをスキャンします。
3. 目的の文字列を決めます。上記の例のように、最大16カ所の文字を決めることができます。次に、このガイドの裏表紙の内側にある**ASCII表**を参照して、文字列を満たすために必要な同等の16進数を見つけます。



使用しない位置には文字「F」を入力する必要があります。

注

4. 付録B「英数字パッド」を参照して、前の手順で決めた16進文字を表すバーコードをスキャンします。最後の文字をスキャンすると、スキャナーからピープ音が3回鳴ります。
5. [開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定： FFFFFFFFFFFFFFFFh（変換なし）	文字変換

メモ

第5章 読み取りコード

このスキャナーは、以下の読み取りコード（バーコードの種類）に対応しています。この章では、各読み取りコードのオプションについて説明します。

- UPC-A
- UPC-E
- EAN-13
- EAN-8/JAN-8
- GS1 DataBar Omnidirectional/
Stacked Omnidirectional
- GS1 DataBar Expanded/
Expanded Stacked
- GS1 DataBar Limited
- Code 39
- Code 32 (Italian Pharmacode)
- Code 128
- Interleaved 2 of 5
- Codabar
- Code 93
- MSI/Plessey
- Standard 2 of 5
- Code 11

UPC-A

UPC-Aの無効化/有効化




このオプションを無効にすると、スキャナーでUPC-Aのバーコードが読み取られません。

開始/終了	
プログラミング バーコード	
	UPC-Aを無効にする
UPC-Aを有効にする 初期設定	

UPC-A（続き）




チェック デジットの送信

このオプションを有効にすると、UPC-Aのバーコード データとともにチェック デジットが送信されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェック デジットを送信しない
チェック デジットを送信 初期設定	

UPC-AをEAN-13に拡張

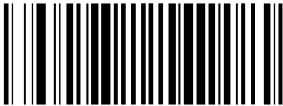


UPC-AデータをEAN-13データ フォーマットに拡張します。また、この機能を選択すると、EAN-13に必要な読み取りコードIDに合わせて、読み取りコードIDが変更されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	EAN-13に拡張しない初期設定
EAN-13に拡張する	

UPC-A (続き)

ナンバー システム デジット (NSD) の送信

この機能は、UPC-Aのナンバー システムの送信を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	ナンバー システム デジットの送信を無効にする
ナンバー システム デジットの送信を有効にする 初期設定	

UPC-Aの最小読み取り回数

この機能は、UPC-Aラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1 初期設定
最小読み取り回数=2	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

UPC-A (続き)

UPC-Aのインストアの最小読み取り回数

この機能は、インストア印刷ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1
最小読み取り回数=2 初期設定	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

UPC-E

UPC-E読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

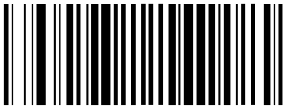


UPC-Eの無効化/有効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでUPC-Eのバーコードが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	UPC-Eを無効にする
UPC-Eを有効にする初期設定	

チェック デジットの送信

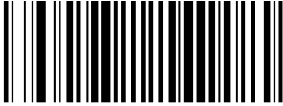


このオプションを有効にすると、UPC-Eのバーコード データとともにチェック デジットが送信されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェック デジットを送信しない
チェック デジットを送信 初期設定	

UPC-E（続き）

ナンバー システム デジット

スキャンされたバーコード データの先頭にナンバー システム デジット（NSD）（常に0です）を付加するかどうかを選択できます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	ナンバー システム デジットを除外する
ナンバー システム デジットを含める 初期設定	

UPC-EをUPC-Aに拡張

UPC-EラベルからUPC-Aへの拡張を有効または無効にします。また、この機能を選択すると、読み取りコードIDがUPC-Aに必要な読み取りコードIDに変更されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	UPC-EをUPC-Aに拡張しない初期設定
UPC-EをUPC-Aに拡張する	

UPC-E（続き）

UPC-EをEAN13に拡張

UPC-EラベルからEAN-13への拡張を有効または無効にします。また、この機能を選択すると、EAN-13に必要な読み取りコードIDに合わせて、読み取りコードIDが変更されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	UPC-EをEAN-13に拡張しない 初期設定
UPC-EをEAN-13に拡張する	

最小読み取り回数

この機能は、UPC-Eラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1
最小読み取り回数=2 初期設定	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

GTIN

GTINラベルのデータ フォーマットには、以下のオプションが適用されます。

UPC/EANをGTINに拡張

UPC-E、UPC-A、EAN8、およびEAN13ラベルから14文字のGTINへの変換を有効にします。変換前のベース ラベルにアドオン情報が存在する場合、変換後のGTINラベルにはアドオン情報が付加されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	GTINに拡張しない 初期設定
GTINに拡張する	

EAN-13

EAN-13読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

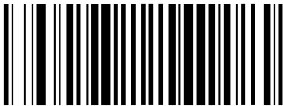


EAN-13の無効化/有効化

EAN/JAN13ラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	EAN-13を無効にする
EAN-13を有効にする 初期設定	

チェック デジットの送信

このオプションを有効にすると、EAN-13のバーコード データとともにチェック デジットが送信されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェック デジットを送信しない
チェック デジットを送信 初期設定	

EAN-13（続き）

EAN-13のフラグ1文字

EAN 13またはJAN 13のフラグ1文字の送信を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	EAN-13のフラグ1文字を送信しない
EAN-13のフラグ1文字を送信する 初期設定	




ISBN

この機能を有効にすると、ISBN（International Standard Book Number）が含まれているラベルから先頭の3桁が削除され、ラベルの末尾にISBNチェックキャラクタが付加されます。これらのコードは書籍および雑誌に使用されます。ISBNコードを含むラベルは「978」で始まります。

例：

バーコードデータ： 「9789572222720」

出力： 「9572222724」

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	ISBNを無効にする 初期設定
ISBNを有効にする	

EAN-13 (続き)

最小読み取り回数

この機能は、EAN-13ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。




開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1 初期設定
最小読み取り回数=2	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

EAN-8/JAN-8

EAN-8/JAN-8読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

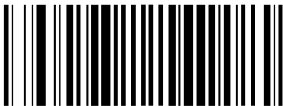


EAN-8/JAN-8の無効化/有効化

EAN/JAN-8ラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	EAN-8を無効にする
EAN-8を有効にする 初期設定	

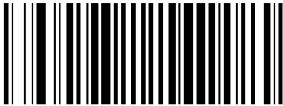


チェック デジットの送信

このオプションを有効にすると、EAN-8/JAN-8のバーコード データとともにチェック デジットが送信されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェック デジットを送信しない
チェック デジットを送信 初期設定	

EAN-8/JAN-8 (続き)

UPC-AをEAN-13に拡張：EAN-8データをEAN-13データフォーマットに拡張します。また、この機能を選択すると、EAN-13に必要な読み取りコードIDに合わせて、読み取りコードIDが変更されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	EAN-13に拡張しない 初期設定
EAN-13に拡張する	



最小読み取り回数

この機能は、EAN-8ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1 初期設定
最小読み取り回数=2	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

EANの2ラベル




EANの2ラベルのペアをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	EANの2ラベルを無効にする
EANの2ラベルを有効にする	

EANの2ラベル（続き）

EANの2ラベルが結合された送信

EANの2ラベルのペアを1つのラベルとして送信する処理を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	EANの2ラベルが結合された送信=無効 初期設定
EANの2ラベルが結合された送信=有効	

価格とウェイトのチェック デジット

価格とウェイトのチェック デジットの計算および検証を有効または無効にします。



注

ナンバー システム デジットが2であるすべてのUPC-Aラベル、およびフラグ1デジットが2であるEAN/JAN 13ラベルに適用されます。

この機能には、以下のオプションを使用できます。

- 無効
- 4桁の価格とウェイトのチェック デジットの計算を有効にする
- 5桁の価格とウェイトのチェック デジットの計算を有効にする
- 欧州向けの4桁の価格とウェイトのチェック デジットの計算を有効にする
- 欧州向けの5桁の価格とウェイトのチェック デジットの計算を有効にする

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	価格とウェイトのチェック デジット=無効 初期設定
価格とウェイトのチェック デジット= 4桁の価格とウェイトを有効にする	
	価格とウェイトのチェック デジット= 5桁の価格とウェイトを有効にする
価格とウェイトのチェック デジット= 欧州向けの4桁の価格とウェイトを有効にする	
	価格とウェイトのチェック デジット= 欧州向けの5桁の価格とウェイトを有効にする

アドオン

UPC/EANバーコードの末尾には、アドオン（補足的な文字）がよく追加されます。アドオンが有効になっている場合、スキャナーは視野内のアドオンを読み取ります。2桁、5桁、およびCode 128アドオンの3種類がサポートされています。サポートされているオプションは以下のとおりです。

なし：このオプションを指定すると、スキャナーはUPC/EANバーコードのアドオン部分を無視しますが、バーコードのメイン部分は読み取ります。

2桁：スキャナーはUPC/EANラベルとともに2桁アドオンを必要に応じて読み取ります。

5桁：スキャナーはUPC/EANラベルとともに5桁アドオンを必要に応じて読み取ります。

Code 128アドオン：スキャナーはUPC/EANラベルとともにCode 128アドオンを必要に応じて読み取ります。



注

オプションおよび条件付きのアドオンの高度なプログラミングについては、HPのサポート窓口にお問い合わせください。

アドオン（続き）

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	オプションの2桁アドオンを無効にする 初期設定
オプションの2桁アドオンを有効にする	
	オプションの5桁アドオンを無効にする 初期設定
オプションの5桁アドオンを有効にする	
	オプションのCode 128アドオンを無効にする 初期設定
オプションのCode 128アドオンを有効にする	



注

UPC/EANのベース ラベルおよびP2アドオンの両方がデコードされた場合、スキャナーによってベース ラベルおよびアドオンが送信されます。UPC/EANのベース ラベルがアドオンなしでデコードされた場合、ベース ラベルがアドオンなしで送信されます。

条件付きのアドオン設定は、オプションのアドオン設定の前にスキャナーによって判定されることに注意してください。

アドオン（続き）

2桁アドオンの最小読み取り回数

この設定は、2桁アドオンが有効とマークされるまでに必要な最小のデコード回数を指定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
最小読み取り回数=2 初期設定	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

アドオン（続き）

5桁アドオンの最小読み取り回数

この設定は、5桁アドオンが有効とマークされるまでに必要な最小のデコード回数を指定します。


開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1 初期設定
最小読み取り回数=2	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

GS1 DataBar Omnidirectional/Stacked Omnidirectional

GS1 DataBar Omnidirectional読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。これらは、GS1の付加価値機能が有効になっている場合にのみ機能します。

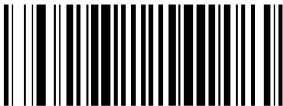

GS1 DataBar Omnidirectionalの無効化/有効化

この機能を無効にすると、スキャナーでGS1 DataBar Omnidirectionalのバーコードが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	GS1 DataBar Omnidirectionalを無効にする
GS1 DataBar Omnidirectionalを有効にする 初期設定	

UCC/EAN 128エミュレーション

このオプションを有効にすると、GS1 DataBar OmnidirectionalバーコードがUCC/EAN 128ラベルのデータフォーマットに変換されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	UCC/EAN 128エミュレーションを無効にする 初期設定
UCC/EAN 128エミュレーションを有効にする	

GS1 DataBar Omnidirectional/Stacked Omnidirectional (続き)

最小読み取り回数

この機能は、GS1 DataBar Omnidirectionalラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1 初期設定
最小読み取り回数=2	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

GS1 DataBar Expanded/Expanded Stacked

GS1 DataBar Expanded読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。これらは、GS1の付加価値機能が有効になっている場合にのみ機能します。




GS1 DataBar Expandedの無効化/有効化

この機能を無効にすると、スキャナーでGS1 DataBar Expandedのバーコードが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	GS1 DataBar Expandedを無効にする
GS1 DataBar Expandedを有効にする 初期設定	

GS1-128エミュレーション

このオプションを有効にすると、GS1 DataBar ExpandedバーコードがGS1-128ラベルのデータフォーマットに変換されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	GS1-128エミュレーションを無効にする 初期設定
GS1-128エミュレーションを有効にする	

GS1 DataBar Expanded/Expanded Stacked (続き)

長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な長さ1および長さ2の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	可変長デコード 初期設定
固定長デコード	

GS1 DataBar Expandedの長さ1、長さ2のプログラミング手順

この機能の設定手順について詳しくは、[142ページ](#)を参照してください。



注

GS1 DataBar Expandedバーコードの場合、長さの計算にはデータ文字列のみが含まれます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定：01	長さ1の設定
長さ2の設定	 この機能の初期設定：74

GS1 DataBar Expanded/Expanded Stacked（続き）

最小読み取り回数

この機能は、GS1 DataBar Expandedラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1 初期設定
最小読み取り回数=2	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

GS1 DataBar Expanded/Expanded Stacked（続き）

クーポン読み取り制御

この機能はクーポンの読み取りを制御します。



注

「5」で始まるUPCAラベルはクーポンラベルとして定義されます。

「99」で始まるEAN13ラベルはクーポンラベルとして定義されます。

「8110」で始まるGS1 Expandedラベルはクーポンラベルとして定義されます。

以下のオプションがあります。

- **無効**：クーポンのフィルタリングを無効にします。
- **UPC-Aクーポンのデコードを有効にする**：クーポンラベルを含んでいるUPCA/EAN13ラベルはデコードされますが、GS1 Expandedクーポンラベルはデコードされません。クーポンラベルではないGS1 Expandedラベルはデコードされます。
- **GS1 Expandedクーポンのデコードを有効にする**：クーポンラベルを含んでいるGS1 Expandedラベルはデコードされますが、UPC-A/EAN-13クーポンラベルはデコードされません。クーポンラベルではないUPC-A/EAN-13ラベルはデコードされます。


開始/終了	
プログラミングバーコード	
	クーポンのフィルタリングを無効にする
UPC-Aクーポンのデコードを有効にする GS1 DataBarクーポンのデコードを無効にする 初期設定	
	GS1 DataBaクーポンのデコードを有効にする UPC-Aクーポンのデコードを無効にする

GS1 DataBar Limited

GS1 DataBar Limited読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。


GS1 DataBar Limitedの無効化/有効化

この機能を無効にすると、スキャナーでGS1 DataBar Limitedのバーコードが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	GS1 DataBar Limitedを無効にする 初期設定
GS1 DataBar Limitedを有効にする	

GS1-128エミュレーション

このオプションを有効にすると、GS1 DataBar LimitedのバーコードがGS1-128ラベルのデータフォーマットに変換されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	GS1-128エミュレーションを無効にする 初期設定
GS1-128エミュレーションを有効にする	

GS1 DataBar Limited (続き)

最小読み取り回数

この機能は、GS1 DataBar Limitedラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。




開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1 初期設定
最小読み取り回数=2	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

Code 39

Code 39読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

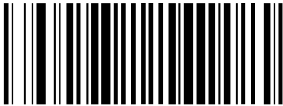


Code 39の無効化/有効化

この機能を無効にすると、スキャナーでCode 39のバーコードが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Code 39を無効にする
Code 39を有効にする 初期設定	

チェックキャラクタの計算

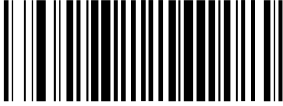


このオプションを有効にすると、スキャナーはラベルのチェックキャラクタを計算します。このオプションは、Code 39ラベルにチェックサムが存在する場合にのみオンにしてください。このオプションを無効にすると、ラベル内のすべてのチェックキャラクタがデータ文字として扱われます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェックキャラクタの計算を無効にする 初期設定
チェックキャラクタの計算を有効にする	

Code 39 (続き)




チェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、スキャンされたバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェックキャラクタの送信を無効にする
チェックキャラクタの送信を有効にする 初期設定	

スタート/ストップキャラクタ

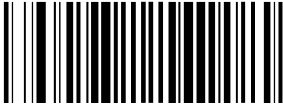


Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
スタート/ストップキャラクタを送信しない 初期設定	
	スタート/ストップキャラクタを送信する

Code 39（続き）

Code 39 Full ASCII

Code 39文字からCode 39 Full ASCII文字への変換を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Code 39 Full ASCIIを無効にする 初期設定
Code 39 Full ASCIIを有効にする	

Code 39 (続き)

長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な長さ1および長さ2の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	可変長デコード 初期設定
固定長デコード	

Code 39の長さ1、長さ2のプログラミング手順

この機能の設定手順について詳しくは、[142ページ](#)を参照してください。



注

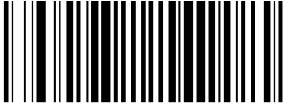


Code 39バーコードの場合、長さの計算にはチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字がすべて含まれます。スタート/ストップキャラクタは含まれません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定：02	長さ1の設定
長さ2の設定	 この機能の初期設定：50

Code 39（続き）

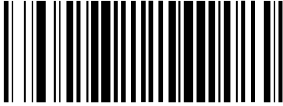


クワイエットゾーン

この機能は、Code 39バーコードにクワイエットゾーンが存在するという要件を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	クワイエットゾーンを要求しない 初期設定
クワイエットゾーンを要求する	

Code 39のスティッチ

Code 39ラベルのスティッチ機能を有効または無効にします。この機能が有効になっているときにCode 39バーコードの各断片がスキャナーに送られると、それらのバーコードの断片がスキャナーのソフトウェアによって1つにまとめられ、バーコードのすべての検査要件が満たされた場合にそのデータがデコードされます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Code 39のスティッチを無効にする
Code 39のスティッチを有効にする 初期設定	

Code 39 (続き)

最小読み取り回数

この機能は、Code 39ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1 初期設定
最小読み取り回数=2	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

Code 32 (Italian Pharmacode)

Code 32 (Italian Pharmacode) 読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。スキャナーで医薬コード39のラベルを読み取るには、73ページの「Code 39の無効化/有効化」の機能も有効にする必要があります。




Code 32 (Italian Pharmacode) の無効化/有効化

この機能を無効にすると、スキャナーでCode 32 (Italian Pharmacode) のバーコードが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Code 32 (Italian Pharmacode) を無効にする 初期設定
Code 32 (Italian Pharmacode) を有効にする	

スタート/ストップキャラクタ

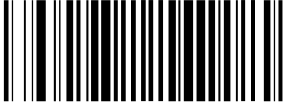


Code 32 (Italian Pharmacode) のスタート/ストップキャラクタの送信を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	スタート/ストップキャラクタを送信しない 初期設定
スタート/ストップキャラクタを送信する	

Code 32 (Italian Pharmacode) (続き)

チェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、スキャンされたバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。




開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェックキャラクタの送信を無効にする 初期設定
チェックキャラクタの送信を有効にする	

Code 128

Code 128読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

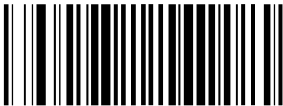


Code 128の無効化/有効化

この機能を無効にすると、スキャナーでCode 128のバーコードが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Code 128を無効にする
Code 128を有効にする 初期設定	

EAN 128の無効化/有効化

スキャナーでEAN128ラベルをEAN128データ フォーマットに変換する機能を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	EAN128ラベルをCode128データ フォーマットで送信する
EAN128ラベルをEAN128データ フォーマットで送信する 初期設定	

Code 128（続き）

ファンクション文字の送信

Code128のファンクション文字1、2、3、および4の送信を有効または無効にします。ファンクションコードは以下のように送信されます。



- FNC1=80h
- FNC2=81h
- FNC3=82h
- FNC4=83h



注

ラベルがファンクション文字3で始まっている場合は、プログラミング ラベルと見なされ、ラベル データは変更されません。それ以外の場合は、この設定項目が無効に設定されていると、すべてのファンクション文字がラベルデータから削除されます。

すべてのインターフェイスでこの設定を無効にすることをおすすめします。


開始/終了	
プログラミング バーコード	
	ファンクション文字を送信しない 初期設定
ファンクション文字を送信する	

Code 128 (続き)

長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な長さ1および長さ2の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	可変長デコード 初期設定
固定長デコード	

Code 128の長さ1、長さ2のプログラミング手順

この機能の設定手順について詳しくは、[142ページ](#)を参照してください。



注

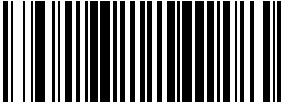


Code 128バーコードの場合、長さの計算にはデータ文字列のみが含まれます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定：01	長さ1の設定
長さ2の設定	 この機能の初期設定：50

Code 128（続き）

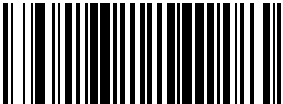


Code 128からCode 39への変換

Code 128ラベルからCode 39ラベルへの拡張を有効または無効にします。このオプションを有効にするとCode128ラベルのラベルIDがCode 39に設定され、Code 39のすべてのフォーマット制御がラベルに適用されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	無効 初期設定
有効	

Code 128のステイッチ

Code 128ラベルのステイッチ機能を有効または無効にします。この機能が有効になっているときにCode 128バーコードの各断片がスキャナーに送られると、それらのバーコードの断片がスキャナーのソフトウェアによって1つにまとめられ、バーコードのすべての検査要件が満たされた場合にそのデータがデコードされます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Code 128のステイッチを無効にする
Code 128のステイッチを有効にする 初期設定	

Code 128（続き）

最小読み取り回数

この機能は、Code 128ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1 初期設定
最小読み取り回数=2	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

Interleaved 2 of 5

Interleaved 2 of 5 (I2 of 5) 読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。




Interleaved 2 of 5の無効化/有効化

この機能を無効にすると、スキャナーでInterleaved 2 of 5のバーコードが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Interleaved 2 of 5を無効にする 初期設定
Interleaved 2 of 5を有効にする	

チェック デジットの計算




このオプションを有効にすると、スキャナーはラベルのチェック デジットを計算します。
このオプションを無効にすると、ラベル内のすべてのチェックキャラクタがデータ文字として扱われます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェック デジットの計算を無効にする 初期設定
チェック デジットの計算を有効にする	

Interleaved 2 of 5 (続き)

チェック デジットの送信

このオプションを有効にすると、スキャンされたバーコード データとともにチェック デジットが送信されます。86ページの「チェック デジットの計算」機能が有効になっている場合に適用されます。



開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェック デジットの計算を無効にする
チェック デジットの計算を有効にする 初期設定	

Interleaved 2 of 5（続き）

長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な最小長および最大長の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	可変長デコード 初期設定
固定長デコード	

Interleaved 2 of 5の長さ1、長さ2のプログラミング手順

この機能の設定手順について詳しくは、[142ページ](#)を参照してください。



注

Interleaved 2 of 5バーコードの場合、長さは偶数でなければなりません。また、長さの計算にはチェックキャラクタおよびデータ文字列がすべて含まれます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定：06	長さ1の設定
長さ2の設定	 この機能の初期設定：50

Interleaved 2 of 5（続き）

Interleaved 2 of 5のスティッチ

Interleaved 2 of 5ラベルのスティッチ機能を有効または無効にします。この機能が有効になっているときにInterleaved 2 of 5バーコードの各断片がスキャナーに送られると、それらのバーコードの断片がスキャナーのソフトウェアによって1つにまとめられ、バーコードのすべての検査要件が満たされた場合にそのデータがデコードされます。



注

固定長デコードが有効になっている場合にのみ機能します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Interleaved 2 of 5のスティッチを無効にする 初期設定
Interleaved 2 of 5のスティッチを有効にする	

Interleaved 2 of 5 (続き)

最小読み取り回数

この機能は、Interleaved 2 of 5ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

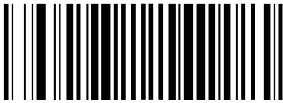


開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1 初期設定
最小読み取り回数=2	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

Codabar

Codabar読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。




Codabarの無効化/有効化

この機能を無効にすると、スキャナーでCodabarのバーコードが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Codabarを無効にする 初期設定
Codabarを有効にする	

チェックキャラクタの検証




このオプションを有効にすると、スキャナーはラベルのチェックキャラクタを検証します。このオプションを無効にすると、ラベル内のすべてのチェックキャラクタがデータ文字列として扱われます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェックキャラクタの検証を無効にする 初期設定
チェックキャラクタの検証を有効にする	

Codabar（続き）

チェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、スキャンされたバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。91ページの「チェックキャラクタの検証」機能が有効になっている場合に適用されます。



開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェックキャラクタの送信を無効にする
チェックキャラクタの送信を有効にする 初期設定	

Codabar（続き）

長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な最小長および最大長の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	可変長デコード 初期設定
固定長デコード	

Codabarの長さ1、長さ2のプログラミング手順

この機能の設定手順について詳しくは、[142ページ](#)を参照してください。



注




Codabarバーコードの場合、長さの計算にはスタートキャラクタ、ストップキャラクタ、チェックキャラクタ、およびデータ文字列がすべて含まれます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定：03	長さ1の設定
長さ2の設定	 この機能の初期設定：50

Codabar（続き）

クワイエットゾーン

この機能は、Codabarバーコードにクワイエットゾーンが存在するという要件を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	クワイエットゾーンを要求しない 初期設定
クワイエットゾーンを要求する	

スタート/ストップキャラクタの種類




Codabarには開始/終了パターンのペアが4種類あります。アプリケーションに適合するペアを選択してください。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	開始/終了の種類：ABCD/TN*E
開始/終了の種類：ABCD/ABCD	
	開始/終了の種類：abcd/tn*e
開始/終了の種類：abcd/abcd 初期設定	

Codabar（続き）




スタート/ストップキャラクタの送信

Codabarのスタートキャラクタおよびストップキャラクタの送信は以下で選択します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	スタート/ストップキャラクタの送信を無効にする
スタート/ストップキャラクタの送信を有効にする 初期設定	

スタート/ストップキャラクタの照合

この機能は、スタートキャラクタおよびストップキャラクタが一致するという要件を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	スタート/ストップキャラクタの照合を無効にする 初期設定
スタート/ストップキャラクタの照合を有効にする	

Codabar（続き）




Codabarのステイッチ

Codabarラベルのステイッチ機能を有効または無効にします。この機能が有効になっているときにCodabarバーコードの各断片がスキャナーに送られると、それらのバーコードの断片がスキャナーのソフトウェアによって1つにまとめられ、バーコードのすべての検査要件が満たされた場合にそのデータがデコードされます。



注

固定長デコードが有効になっている場合のみ機能します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Codabarのステイッチを無効にする 初期設定
Codabarのステイッチを有効にする	

Codabar（続き）

最小読み取り回数

この機能は、Codabarラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1 初期設定
最小読み取り回数=2	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

Code 93

Code 93読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

Code 93の無効化/有効化

この機能を無効にすると、スキャナーでCode 93のバーコードが読み取られません。




開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Code 93を無効にする
Code 93を有効にする 初期設定	

Code 93（続き）

長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な最小長および最大長の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	可変長デコード 初期設定
固定長デコード	

Code 93の長さ1、長さ2のプログラミング手順

この機能の設定手順について詳しくは、[142ページ](#)を参照してください。



注




Code 93バーコードの場合、長さの計算にはデータ文字列のみが含まれます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定：01	長さ1の設定
長さ2の設定	 この機能の初期設定：50

Code 93（続き）

Code 93のステイッチ

Code 93バーコードのステイッチ機能を有効または無効にします。この機能が有効になっているときにCode 93バーコードの各断片がスキャナーに送られると、それらのバーコードの断片がスキャナーのソフトウェアによって1つにまとめられ、バーコードのすべての検査要件が満たされた場合にそのデータがデコードされます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Code 93のステイッチを無効にする
Code 93のステイッチを有効にする 初期設定	

最小読み取り回数

この機能は、Code 93ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1 初期設定
最小読み取り回数=2	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

MSI/Plessey

MSI/Plessey読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。




MSI/Plesseyの無効化/有効化

この機能を無効にすると、スキャナーでMSI/Plesseyのバーコードが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	MSI/Plesseyを無効にする 初期設定
MSI/Plesseyを有効にする	

チェック デジットの検証




この機能は、1桁または2桁のチェック デジットの計算および検証を行うかどうかを指定します。このオプションを無効にすると、ラベル内のすべてのチェックキャラクタがデータ文字列として扱われます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェック デジットの検証を無効にする
チェック デジットの検証を有効にする 初期設定	

MSI/Plessey (続き)




チェック デジットの送信

このオプションを有効にすると、スキャナーはチェック デジットの検証の設定に応じて1桁または2桁のチェック デジットを送信します。101ページの「チェック デジットの検証」機能が有効になっている場合に適用されます。

開始/終了	
プログラミング バーコード	
	チェック デジットの送信を無効にする
チェック デジットの送信を有効にする 初期設定	

チェックキャラクタの数

計算および検証を行うMSI/Plesseyチェックキャラクタの数を指定します。チェックキャラクタは常にモジュラス10です。




開始/終了	
プログラミング バーコード	
	1チェックキャラクタ 初期設定
2チェックキャラクタ	

MSI/Plessey（続き）

長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な最小長および最大長の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	可変長デコード 初期設定
固定長デコード	

MSI/Plesseyの長さ1、長さ2のプログラミング手順

この機能の設定手順について詳しくは、[142ページ](#)を参照してください。



注

MSI/Plesseyバーコードの場合、長さの計算にはチェックキャラクタおよびデータ文字列がすべて含まれます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定：04	長さ1の設定
長さ2の設定	 この機能の初期設定：16

MSI/Plessey（続き）

MSI/Plesseyのステイッチ

MSI/Plesseyバーコードのステイッチ機能を有効または無効にします。この機能が有効になっているときにMSI/Plesseyバーコードの各断片がスキャナーに送られると、それらのバーコードの断片がスキャナーのソフトウェアによって1つにまとめられ、バーコードのすべての検査要件が満たされた場合にそのデータがデコードされます。



注

固定長デコードが有効になっている場合のみ機能します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	MSI/Plesseyのステイッチを無効にする 初期設定
MSI/Plesseyのステイッチを有効にする	

MSI/Plessey（続き）

最小読み取り回数

この機能は、MSI/Plesseyラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。




開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1 初期設定
最小読み取り回数=2	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

Standard 2 of 5

Standard 2 of 5読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。




Standard 2 of 5の無効化/有効化

この機能を無効にすると、スキャナーでStandard 2 of 5のバーコードが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Std 2 of 5を無効にする 初期設定
Std 2 of 5を有効にする	

チェック デジットの検証

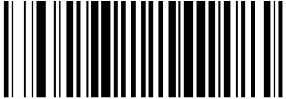


このオプションを有効にすると、スキャナーはラベルのチェック デジットを検証します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェック デジットの検証を無効にする 初期設定
チェック デジットの検証を有効にする	

Standard 2 of 5 (続き)

チェック デジットの送信

このオプションを有効にすると、スキャナーはチェック デジットを送信します。106 ページの「チェック デジットの検証」機能が有効になっている場合に適用されます。




開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェック デジットの送信を無効にする
チェック デジットの送信を有効にする 初期設定	

Standard 2 of 5（続き）

長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な最小長および最大長の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	可変長デコード 初期設定
固定長デコード	

Standard 2 of 5の長さ1、長さ2のプログラミング手順

この機能の設定手順について詳しくは、[142ページ](#)を参照してください。



注

Standard 2 of 5バーコードの場合、長さの計算にはチェックキャラクタおよびデータ文字列がすべて含まれます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定：08	長さ1の設定
長さ2の設定	 この機能の初期設定：50

Standard 2 of 5（続き）




Standard 2 of 5のスイッチ

Standard 2 of 5バーコードのスイッチ機能を有効または無効にします。この機能が有効になっているときにStandard 2 of 5バーコードの各断片がスキャナーに送られると、それらのバーコードの断片がスキャナーのソフトウェアによって1つにまとめられ、バーコードのすべての検査要件が満たされた場合にそのデータがデコードされます。



注

固定長デコードが有効になっている場合のみ機能します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Std 2 of 5のスイッチを無効にする 初期設定
Std 2 of 5のスイッチを有効にする	

Standard 2 of 5 (続き)

最小読み取り回数

この機能は、Standard 2 of 5ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。




開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1 初期設定
最小読み取り回数=2	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

Code 11

Code 11読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。




Code 11の無効化/有効化

Code 11ラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Code 11を無効にする 初期設定
Code 11を有効にする	

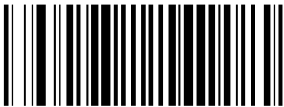


チェックキャラクタの送信

Code 11チェックキャラクタの送信を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェック デジットを送信しない 初期設定
チェック デジットを送信する	

Code 11 (続き)

チェックキャラクタの数：計算および検証を行うCode 11チェックキャラクタの数を指定します。


開始/終了	
プログラミングバーコード	
	チェックキャラクタの数=1チェックキャラクタ 初期設定
チェックキャラクタの数=2チェックキャラクタ	

Code 11（続き）

長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な最小長および最大長の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	可変長デコード 初期設定
固定長デコード	

Code 11の長さ1、長さ2のプログラミング手順

この機能の設定手順について詳しくは、[142ページ](#)を参照してください。



注

Code 39バーコードの場合、長さの計算にはチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字がすべて含まれます。スタート/ストップキャラクタは含まれません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定：04	長さ1の設定
長さ2の設定	 この機能の初期設定：32

Code 11 (続き)

最小読み取り回数

この機能は、Code 11ラベルが読み取り成功として受け入れられるまでに必要な最小の連続デコード回数を指定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	最小読み取り回数=1 初期設定
最小読み取り回数=2	
	最小読み取り回数=3
最小読み取り回数=4	

第6章

2D読み取りコード



注

このセクションの機能は、2D機能が有効になっているモデルでのみ使用できます。

2D読み取りコード

このスキャナーは、以下に示す2D読み取りコード（バーコードの種類）に対応しています。この章では、各2D読み取りコードで使用可能なオプションについて説明します。

- PDF 417
- Micro PDF 417
- Datamatrix
- QR Code
- QR Code
- Maxicode
- Aztec
- Composite ラベル

PDF 417

PDF 417の無効化/有効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでPDF 417のバーコードが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	PDF 417を無効にする
PDF 417を有効にする 初期設定	

PDF 417 (続き)

長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

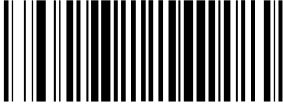


可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な最小長および最大長の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

固定長デコードの設定：

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [固定長デコード]バーコードをスキャンします。
3. [終了]バーコードをスキャンします。
4. 後述の「長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ1を最初の固定長に設定します。
5. 後述の「PDF 417の長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ2を2つ目の固定長（固定長が1つのみの場合は「0000」）に設定します。

可変長デコードの設定：

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [可変長デコード]バーコードをスキャンします。
3. [終了]バーコードをスキャンします。
4. 後述の「PDF 417の長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ1を最小長に設定します。
5. 後述の「PDF 417の長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ2を最大長に設定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	可変長デコード 初期設定
固定長デコード	

PDF 417 (続き)

PDF 417の長さ1、長さ2のプログラミング手順

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [長さ1の設定]または[長さ2の設定]バーコードをスキャンします。
3. 長さを表す4桁の数字 (ゼロパディング) を英数字パッドでスキャンします。



注

PDF 417バーコードの場合、長さの計算にはデータ文字列のみが含まれます。

2710を超える値を設定した場合は、2710と見なされます。

[終了]バーコードをスキャンします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定 : 0001	長さ1の設定
長さ2の設定	 この機能の初期設定 : 2710

Micro PDF 417

Micro PDF 417の無効化/有効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでMicro PDF 417のバーコードが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Micro PDF 417を無効にする 初期設定
Micro PDF 417を有効にする	

Micro PDF 417 (続き)

長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な最小長および最大長の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

固定長デコードの設定：

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [固定長デコード]バーコードをスキャンします。
3. [終了]バーコードをスキャンします。
4. 後述の「長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ1を最初の固定長に設定します。
5. 後述の「Micro PDF 417の長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ2を2つ目の固定長（固定長が1つのみの場合は「0000」）に設定します。

可変長デコードの設定：

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [可変長デコード]バーコードをスキャンします。
3. [終了]バーコードをスキャンします。
4. 後述の「Micro PDF 417の長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ1を最小長に設定します。
5. 後述の「Micro PDF 417の長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ2を最大長に設定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	可変長デコード 初期設定
固定長デコード	

Micro PDF 417 (続き)

Micro PDF 417の長さ1、長さ2のプログラミング手順

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [長さ1の設定]または[長さ2の設定]バーコードをスキャンします。
3. 長さを表す3桁の数字 (ゼロパディング) を英数字パッドでスキャンします。



注

Micro PDF 417バーコードの場合、長さの計算にはデータ文字列のみが含まれます。

366を超える値を設定した場合は、366と見なされます。

[終了]バーコードをスキャンします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定 : 001	長さ1の設定
長さ2の設定	 この機能の初期設定 : 366

Datamatrix

Datamatrixの無効化/有効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでDatamatrixのバーコードが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Datamatrixを無効にする
Datamatrixを有効にする 初期設定	

Datamatrix (続き)

長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。



可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な最小長および最大長の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

固定長デコードの設定：

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [固定長デコード]バーコードをスキャンします。
3. [終了]バーコードをスキャンします。
4. 後述の「長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ1を最初の固定長に設定します。
5. 後述の「Datamatrixの長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ2を2つ目の固定長（固定長が1つのみの場合は「0000」）に設定します。

可変長デコードの設定：

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [可変長デコード]バーコードをスキャンします。
3. [終了]バーコードをスキャンします。
4. 後述の「Datamatrixの長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ1を最小長に設定します。
5. 後述の「Datamatrixの長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ2を最大長に設定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	可変長デコード 初期設定
固定長デコード	

Datamatrix (続き)

Datamatrixの長さ1、長さ2のプログラミング手順

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [長さ1の設定]または[長さ2の設定]バーコードをスキャンします。
3. 長さを表す3桁の数字 (ゼロパディング) を英数字パッドでスキャンします。



注

Datamatrixバーコードの場合、長さの計算にはデータ文字列のみが含まれます。

800を超える値を設定した場合は、800と見なされます。

[終了]バーコードをスキャンします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定 : 001	長さ1の設定
長さ2の設定	 この機能の初期設定 : 800

QR Code

QR Codeの無効化/有効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでQR Codeのラベルが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	QR Codeを無効にする
QR Codeを有効にする 初期設定	

QR Code (続き)

長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。



可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な最小長および最大長の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

固定長デコードの設定：

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [固定長デコード]バーコードをスキャンします。
3. [終了]バーコードをスキャンします。
4. 後述の「長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ1を最初の固定長に設定します。
5. 後述の「QR Codeの長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ2を2つ目の固定長（固定長が1つのみの場合は「0000」）に設定します。

可変長デコードの設定：

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [可変長デコード]バーコードをスキャンします。
3. [終了]バーコードをスキャンします。
4. 後述の「QR Codeの長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ1を最小長に設定します。
5. 後述の「QR Codeの長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ2を最大長に設定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	可変長デコード 初期設定
固定長デコード	

QR Code (続き)

QR Codeの長さ1、長さ2のプログラミング手順

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [長さ1の設定]または[長さ2の設定]バーコードをスキャンします。
3. 長さを表す4桁の数字 (ゼロパディング) を英数字パッドでスキャンします。



注

QR Codeのラベルの場合、長さの計算にはデータ文字列のみが含まれます。

2710を超える値を設定した場合は、2710と見なされます。

[終了]バーコードをスキャンします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定 : 0001	長さ1の設定
長さ2の設定	 この機能の初期設定 : 2710

Micro QR Code

Micro QR Codeの無効化/有効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでMicro QR Codeのラベルが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Micro QR Codeを無効にする 初期設定
Micro QR Codeを有効にする	



注

Micro QR Codeの長さ制御は、QR Codeの構成設定にすべて従います。

Maxicode

Maxicodeの無効化/有効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでMaxicodeのラベルが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Maxicodeを無効にする 初期設定
Maxicodeを有効にする	

Maxicode（続き）

長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な最小長および最大長の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

固定長デコードの設定：

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [固定長デコード]バーコードをスキャンします。
3. [終了]バーコードをスキャンします。
4. 後述の「長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ1を最初の固定長に設定します。
5. 後述の「Maxicodeの長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ2を2つ目の固定長（固定長が1つのみの場合は「0000」）に設定します。

可変長デコードの設定：

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [可変長デコード]バーコードをスキャンします。
3. [終了]バーコードをスキャンします。
4. 後述の「Maxicodeの長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ1を最小長に設定します。
5. 後述の「Maxicodeの長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ2を最大長に設定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	可変長デコード 初期設定
固定長デコード	

Maxicode (続き)

Maxicodeの長さ1、長さ2のプログラミング手順

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [長さ1の設定]または[長さ2の設定]バーコードをスキャンします。
3. 長さを表す3桁の数字 (ゼロパディング) を英数字パッドでスキャンします。



注

Maxicodeのラベルの場合、長さの計算にはデータ文字列のみが含まれます。

138を超える値を設定した場合は、138と見なされます。




[終了]バーコードをスキャンします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定 : 001	長さ1の設定
長さ2の設定	 この機能の初期設定 : 138

Aztec

Aztecの無効化/有効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでAztecのラベルが読み取られません。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	Aztecを無効にする 初期設定
Aztecを有効にする	

Aztec (続き)

長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

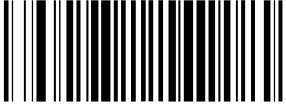


可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な最小長および最大長の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

固定長デコードの設定：

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [固定長デコード]バーコードをスキャンします。
3. [終了]バーコードをスキャンします。
4. 後述の「長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ1を最初の固定長に設定します。
5. 後述の「Aztecの長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ2を2つ目の固定長（固定長が1つのみの場合は「0000」）に設定します。

可変長デコードの設定：

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [可変長デコード]バーコードをスキャンします。
3. [終了]バーコードをスキャンします。
4. 後述の「Aztecの長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ1を最小長に設定します。
5. 後述の「Aztecの長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ2を最大長に設定します。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	可変長デコード 初期設定
固定長デコード	

Aztec (続き)

Aztecの長さ1、長さ2のプログラミング手順

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [長さ1の設定]または[長さ2の設定]バーコードをスキャンします。
3. 長さを表す4桁の数字 (ゼロパディング) を英数字パッドでスキャンします。



注

Aztecのラベルの場合、長さの計算にはデータ文字列のみが含まれます。

3700を超える値を設定した場合は、2710と見なされます。

[終了]バーコードをスキャンします。




開始/終了	
プログラミングバーコード	
 この機能の初期設定 : 0001	長さ1の設定
長さ2の設定	 この機能の初期設定 : 2710

Compositeラベル

GS1 DataBar Omnidirectionalの2Dコンポーネントの無効化/有効化

このオプションを有効にすると、2Dリンク フラグが設定されているGS1 DataBar Omnidirectionalラベルがデコードされた場合に2Dコンポーネントもデコードされる必要があり、そうでなければベースラベルは破棄されます。



このオプションを無効にすると、リンク フラグの状態にかかわらず、GS1 DataBar Omnidirectionalのベースラベルのみがデコードされて送信されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	GS1 DataBar Omnidirectionalの2D コンポーネントを無効にする 初期設定
GS1 DataBar Omnidirectionalの2D コンポーネントを有効にする	

GS1 DataBar Expandedの2Dコンポーネントの無効化/有効化

このオプションを有効にすると、2Dリンク フラグが設定されているGS1 DataBar Expandedラベルがデコードされた場合に2Dコンポーネントもデコードされる必要があり、そうでなければベースラベルは破棄されます。

このオプションを無効にすると、リンク フラグの状態にかかわらず、GS1 DataBar Expandedのベースラベルのみがデコードされて送信されます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	GS1 DataBar Expandedの2D コンポーネントを無効にする 初期設定
GS1 DataBar Expandedの2D コンポーネントを有効にする	

GS1 DataBar Limitedの2Dコンポーネントの無効化/有効化

このオプションを有効にすると、2Dリンク フラグが設定されているGS1 DataBar Limitedラベルがデコードされた場合に2Dコンポーネントもデコードされる必要があり、そうでなければベースラベルは破棄されます。

このオプションを無効にすると、リンク フラグの状態にかかわらず、GS1 DataBar Limitedのベースラベルのみがデコードされて送信されます。




開始/終了	
プログラミングバーコード	
	GS1 DataBar Limitedの2D コンポーネントを無効にする 初期設定
GS1 DataBar Limitedの2D コンポーネントを有効にする	

メモ

第7章 高度なデコード機能

医薬分野のパターン

医薬分野のパターンの使用を有効または無効にします。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	医薬分野のパターン=無効 初期設定
医薬分野のパターン=有効	



注

医薬分野のパターンは、ほぼフェンス方向のみのVSL (1D) パターンです。このため、全方位に対応する機能は失われますが、はるかに濃いフェンスパターンが得られ、大きく切り取られている1Dバーコードや小さい1Dバーコードを読み取る機能が大幅に向上します。

反転ラベルの読み取り

このオプションは、反転ラベル（黒字に白のラベル）の読み取り方法を制御します。



注

この機能は、GS1 DataBarおよび2D読み取りコードでのみ使用できます。

開始/終了	
プログラミングバーコード	
	2D読み取りモード=通常ラベルのみ読み取る 初期設定
2D読み取りモード=通常ラベルと反転ラベルの 両方を読み取る	
	2D読み取りモード=反転ラベルのみ読み取る

第8章

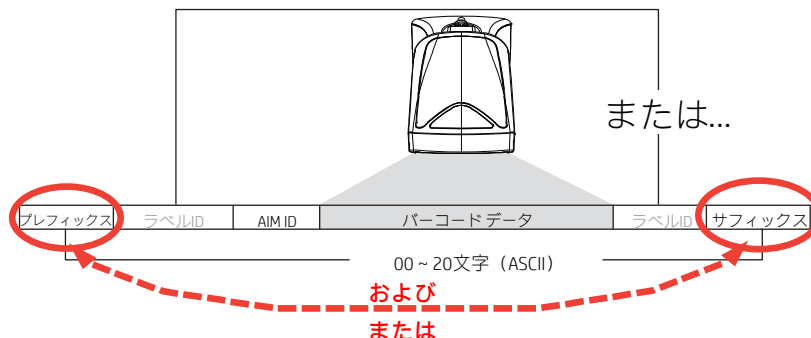
リファレンス

このセクションには、選ばれたバーコード機能の説明および例が記載されています。リーダーの設定に使用される実際のバーコード ラベルについては、プログラミングのセクションを参照してください。

グローバルプレフィックス/サフィックス

図7に示すように、最大20文字のASCII文字をプレフィックスとして（バーコード データの前の位置に）、またはサフィックスとして（バーコード データの後ろの位置に）追加できます。

図7. プレフィックスおよびサフィックスの位置



例：プレフィックスの設定

この例では、すべての読み取りコードにプレフィックスを設定します。

1. スキャンされたバーコード データに追加するASCII文字を決めます。この例では、ドル記号（「\$」）をプレフィックスとして追加します。
2. [開始]バーコードをスキャンします。
3. [プレフィックスの設定]バーコードをスキャンします。
4. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表を参照して、目的の文字に割り当てられている16進値を見つけます。「\$」文字に対応する16進数は24です。この選択コードを入力するには、付録B「英数字パッド」に記載されている[2]および[4]のバーコードをスキャンします。
5. [終了]バーコードを1回スキャンして文字列を終了し、[終了]バーコードをもう一度スキャンしてプログラミングモードを終了します。



注

プレフィックスまたはサフィックスに20文字すべてを使用する場合は、文字列を終了するための[終了]バーコードはスキャンしないでください。これは自動的に行われます。

6. 結果として、以下のようなメッセージ文字列が表示されます。
スキャンされたバーコードデータ：12345

結果として出力されるメッセージ文字列：\$12345

ラベルID

ラベルIDはバーコード（読み取りコード）の種類を識別するために使用されます。一般的な読み取りコードの一覧については、付録C「初期設定」を参照してください。このオプションを有効にする方法に応じて、送信されるバーコードデータの前または後ろにラベルIDを連結できます。この機能には、カスタムのラベルIDを読み取りコードごとに個別に設定するためのオプションが用意されています。「すべての」種類の読み取りコードで常に業界標準のラベルIDが含まれるようにスキャナーをプログラミングする場合は、「AIM ID」機能を参照してください。

ラベルIDは、最大3つのASCII文字（各文字は00～7F）で構成されるカスタマイズ可能なコードであり、後ろに制御文字（00～01）が続きます。この制御文字が0に設定されている場合は、何も行われません。1に設定されている場合は、読み取りコードのAIM IDがラベルIDに付加されます。



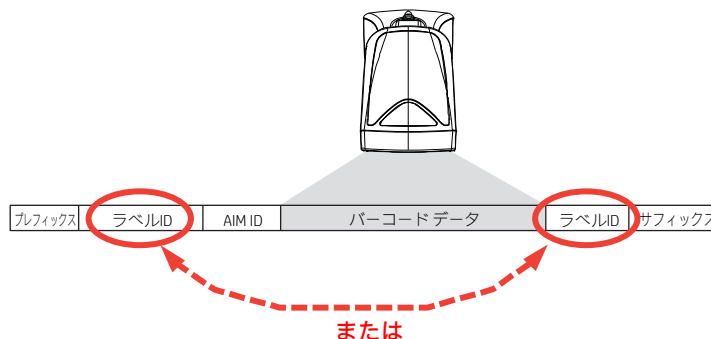
注

UPC-AおよびUPC-Eの制御文字が01に設定されている場合、ラベルはEAN-13に拡張されて、EAN-13のラベルID設定に従います。

ラベルIDを設定するには、以下の操作を行います。

1. [開始]バーコードをスキャンします。
2. [前]または[後]のどちらかのバーコードをスキャンして、ラベルIDの位置を選択します。
3. バーコードをスキャンして、カスタムのラベルIDを設定する読み取りコードを選択します。
4. 選択した読み取りコード用のラベルIDを表す目的の文字（3文字まで選択可能）を決めます。次に、このガイドの裏表紙の内側にある「ASCII表」を参照して、選択したラベルIDに関連付けられている同等の16進数を見つけます。たとえば、ラベルIDとして等号（=）を選択する場合、ASCII表にはそれに関連付けられた16進文字が3Dとして示されています。
5. 付録B「英数字パッド」を参照して、前の手順で決めた16進文字を表すバーコードをスキャンします。たとえば、等号（=）を指定する場合は、「3」と「D」に続いて「0」を6回スキャンします。これは3文字のバッファであるため、2つ目の文字として「00」、3つ目の文字として「00」、および制御文字として「00」をスキャンしています。（「00」は文字を指定しないことを示します。）
6. [終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

図8. ラベルIDの位置のオプション



長さ制御

固定長デコード：固定長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な固定長のどれかに一致する場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

可変長デコード：可変長デコードを有効にすると、ラベル長が設定可能な最小長および最大長の範囲内にある場合に、バーコードはスキャナーでデコードされます。

固定長デコードの設定：

1. [開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. 目的の読み取りコードの[固定長デコード]バーコードをスキャンします。
3. [開始/終了]バーコードをスキャンします。
4. 後述の「長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ1を最初の固定長に設定します。
5. 後述の「長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ2を2つ目の固定長（固定長が1つのみの場合は「00」）に設定します。

可変長デコードの設定：

1. [開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. 目的の読み取りコードの[可変長デコード]バーコードをスキャンします。
3. [開始/終了]バーコードをスキャンします。
4. 後述の「長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ1を最初の可変長に設定します。
5. 後述の「長さ1、長さ2のプログラミング手順」の操作を行って、長さ2を2つ目の可変長に設定します。

長さ1、長さ2のプログラミング手順

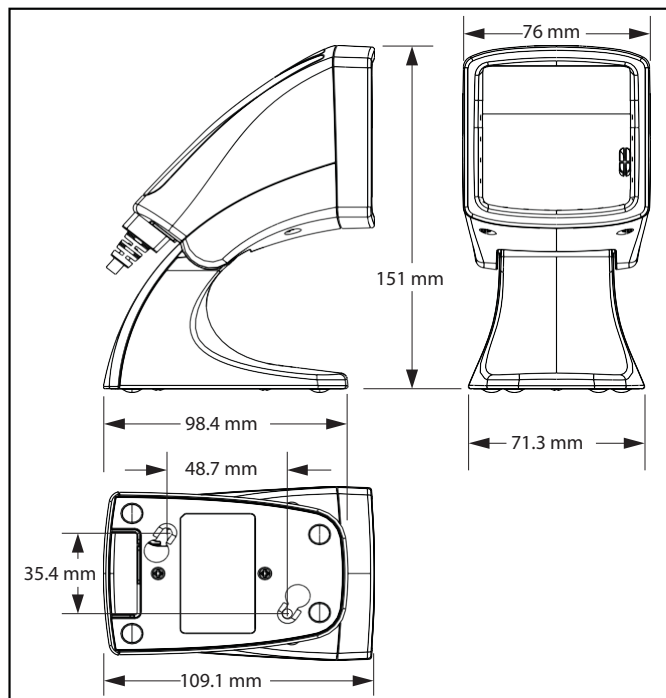
1. [開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. 目的の読み取りコードの[長さ1の設定]または[長さ2の設定]バーコードをスキャンします。
3. 長さを10進表記で表す2桁の数字（ゼロパディング）を付録B「英数字パッド」でスキャンします。設定できる文字の数は読み取りコードによって異なります。特定の変数について確認するには、選択した読み取りコードのページを参照してください。
4. [開始/終了]バーコードをスキャンします。

付録A 製品仕様

光学および読み取り性能パラメーター

パラメーター	仕様
最小分解能	5 mil
被写界深度 (100% UPCラベル)	0 ~ 6"/15.2 cm
最小印刷コントラスト率	25%
スキュー (ヨー)	$\pm 60^\circ$
ピッチ	$\pm 60^\circ$
ロール	0 ~ 360°

スキャナーの寸法



物理的特性

パラメーター	仕様
寸法（スキャナーとベースステーション）:	76 mm × 151 mm × 109.1 mm
質量	306.2 g

電気的パラメーター

パラメーター	仕様
動作電圧	入力電圧：4.5～5.5 V DC
入力電流 動作時（アイドル） 動作時（ラベル読み取り）	250 mA未満 350 mA未満

環境パラメーター

パラメーター	仕様
機械的衝撃	1.2 mから複数回落下
汚染物への耐性 水、ほこり	IP52
温度範囲： 動作時 非動作時	0～+40° C -40～+70° C
周辺光（屋内）	0～6000ルクス
周辺光（屋外）	0～86,100ルクス
湿度	5～95%（結露なし）
振動	小売/事務所

その他のパラメーター

パラメーター	仕様
EAS対応	あり（Checkpoint）

付録B 英数字パッド



A



B



C



D

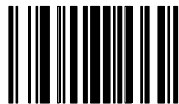


E



F

英数字パッド



1



3



5



7



9

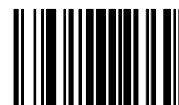


注

数値入力シーケンスでは、スキャナーでラベルを読み取るたびに、残りの入力桁数が通知されます。



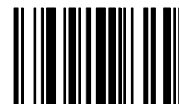
2



4



6



8



0

付録C

初期設定

読み取りコード別の初期設定

以下の表に、読み取りコードの種類ごとに主要な設定の一部を示します。

コードの種類	読み取り有効	チェックサムの検証有効	チェックサムの送信有効	ラベルID
UPC-A	?	?	?	A
UPC-E	?	?	?	E
EAN-13	?	?	?	F
EAN-8	?	?	?	FF
GS1 DataBar Omnidirectional				R4
GS1 Expanded				RX
Code 39	?		?	*
PharmaCode 39				A
Code 128	?			#
Interleaved 2 of 5			?	i
Codabar			?	%
Code 93				&
MSI/Plessey			?	@
Standard 2 of 5			?	s
PDF 417				P
Micro PDF 417	?			mP
Datamatrix				Dm
QR Code				QR
Maxicode				MC
Aztec				Az
GS1 DataBar Omnidirectional 2D Composite				R4
GS1 DataBar Expanded 2D Composite				RX
GS1 DataBar Limited 2D Composite				RL

メモ

USBキーボードのファンクション キー マッピング

表1. USBファンクションキー使用法マップ

ASCII	キーの値	使用法名	修飾キー/スキャンコード
00	NUL	右Alt Make	40h 00h
01	SOH	右Alt Break	00h 00h
02	STX	F11	00h 44h
03	ETX	F12	00h 45h
04	EOT	右GUI Make	80h 00h
05	ENQ	右GUI Break	00h 00h
06	ACK	右Ctrl Make	10h 00h
07	BEL	右Ctrl Break	00h 00h
08	BS	BS	00h 2Ah
09	HT	右タブ	00h 2Bh
0A	LF	右向き矢印 (内側のキーパッド)	00h 4Fh
0B	VT	左タブ	02h 2Bh
0C	FF	Enter (右側のキーパッド)	00h 58h
0D	CR	CR	00h 28h
0E	SO	Insert (内側のキーパッド)	00h 49h
0F	SI	Page Up (内側のキーパッド)	00h 4Bh
10	DLE	Page Down (内側のキーパッド)	00h 4Eh
11	DC1	Home (内側のキーパッド)	00h 4Ah
12	DC2	左向き矢印 (内側のキーパッド)	00h 50h
13	DC3	下向き矢印 (内側のキーパッド)	00h 51h
14	DC4	上向き矢印 (内側のキーパッド)	00h 52h
15	NAK	F6	00h 3Fh
16	SYN	F1	00h 3Ah
17	ETB	F2	00h 3Bh
18	CAN	F3	00h 3Ch
19	EM	F4	00h 3Dh
1A	SUB	F5	00h 3Eh
1B	ESC	Esc	00h 29h
1C	FS	F7	00h 40h
1D	GS	F8	00h 41h
1E	RS	F9	00h 42h
1F	US	F10	00h 43h

メモ

付録E

ホスト コマンド

USB COMインターフェイスでサポートされるホスト コマンド

このスキャナーは以下のホスト コマンドに応答します。

コマンド	ASCII	16進	コメント
スキャナーを有効にする	E	0x45	通常の動作モード
スキャナーを無効にする	D	0x44	照明が無効になり、緑色のLEDが点滅します
スキャナーをリセットする	R	0x52	スキャナーがリセットされ、ビープ音が1回鳴ります
Not on Fileでの通知	F	0x46	照明が無効になり、ビープ音が3回鳴ります。スキャナーを再度有効にするには、Eコマンドを送信する必要があります
読み取り成功ビープ音を鳴らす	B	0x42	読み取り成功ビープ音が有効になっている場合は、ビープ音が鳴ります
読み取り成功ビープ音を強制的に鳴らす	{SOH}	0x01	ビープ音の設定にかかわらずビープ音が鳴ります
識別情報要求	i	0x69	スキャナーは情報データ文字列を送信します ^a
状態要求	h	0x68	スキャナーは情報データ文字列を送信します ^a
ステータス要求	s	0x73	スキャナーは情報データ文字列を送信します ^a
ホストによる携帯電話モードの有効化 P<count>C ここで： PはASCII文字「P」です <count>は0x01の2進値です CはASCII文字「C」です	ASCII 「P」 「C」	16進 0x50 0x43	
画像のキャプチャ <P><\x04><p><S><C> ここで： <P>：ホスト コマンドのプリアンブル文字	ASCII 「P」	16進 0x50	

コマンド	ASCII	16進	コメント
0x04: バイト数 (固定値)		0x04	
<p> : 画像キャプチャ コマンド文字	「p」	0x70	
<S> : サイズ (640 × 480のみ)	「S」	0x53	
 : 明るさ	「B」 または 「0」 (最小) ~ 「9」 (最大)	0x42または0x30 ~ 0x39	「B」 はスキャナーの設定値
<C> : コントラスト	「C」 または 「0」 (最小) ~ 「9」 (最大)	0x42または0x30 ~ 0x39	「C」 はスキャナーの設定値
画像キャプチャの機能および設定について詳しくは、18ページの「画像のキャプチャ」セクションを参照してください。			

^a. HPのサポート窓口にお問い合わせください。

上記のコマンドのどれかを受信すると、スキャナーはコマンドで指定された操作を実行します。その他のホストコマンドも利用できます。詳しくは、HPのサポート窓口にお問い合わせください。

付録F

読み取りコードの例

1D読み取りコードの例



1D読み取りコードの例（続き）

Standard 2 of



GS1 DataBar Omnidirectional



GS1 DataBar Expanded



GS1 DataBar Limited



2D読み取りコードの例

PDF 417



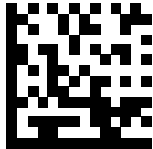
A12B3C

Micro PDF 417



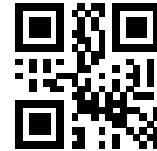
BV17453

Datamatrix



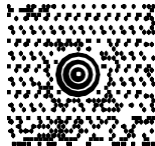
1314H17LL

QR Code



35900G9

Maxicode



111TUVCCIUL7-1

Aztec



This is an Aztec Code

Composite読み取りコードの例

GS1 DataBar Limited Composite

(17) 050923 (10) ABC123



(01) 0 4012345 67890 1

GS1 DataBar Truncated Composite

(17)050923(10)ABC123



(01) 09876543217899

ASCII表

ASCII 文字	16進数	ASCII 文字	16進数	ASCII 文字	16進数	ASCII 文字	16進数
NUL	00	SP	20	@	40	'	60
SOH	01	!	21	A	41	a	61
STX	02	“	22	B	42	b	62
ETX	03	#	23	C	43	c	63
EOT	04	\$	24	D	44	d	64
ENQ	05	%	25	E	45	e	65
ACK	06	&	26	F	46	f	66
BEL	07	'	27	G	47	g	67
BS	08	(28	H	48	h	68
HT	09)	29	I	49	i	69
LF	0A	*	2A	J	4A	j	6A
VT	0B	+	2B	K	4B	k	6B
FF	0C	,	2C	L	4C	l	6C
CR	0D	-	2D	M	4D	m	6D
SO	0E	.	2E	N	4E	n	6E
SI	0F	/	2F	O	4F	o	6F
DLE	10	0	30	P	50	p	70
DC1	11	1	31	Q	51	q	71
DC2	12	2	32	R	52	r	72
DC3	13	3	33	S	53	s	73
DC4	14	4	34	T	54	t	74
NAK	15	5	35	U	55	u	75
SYN	16	6	36	V	56	v	76
ETB	17	7	37	W	57	w	77
CAN	18	8	38	X	58	x	78
EM	19	9	39	Y	59	y	79
SUB	1A	:	3A	Z	5A	z	7A
ESC	1B	;	3B	[5B	{	7B
FS	1C	<	3C	\	5C		7C
GS	1D	=	3D]	5D	}	7D
RS	1E	>	3E	^	5E	~	7E
US	1F	?	3F	_	5F	DEL	7F

メモ